DPASS

Disaster ProActive Support System

取扱説明書

本製品は緊急地震速報を受信し、各地での震度、到達時間を瞬時に予測演算し予報を行うものです。
緊急地震速報のシステム上、予報が実際の地震到達に間に合わなかったり、予測数値に誤差が生じたり、また誤報を受信する場合がありますので、予めご了承ください。
続にあたって必要となりますネットワーク環境、及び機器類（ルータ・ハブ等）はお客様にてご用意ください。

Dream Ware

目 次

目 次 …… 2

◆ 第１章　安全上のご注意

- 安全にお使いいただくために …… 4
- この取扱説明書の表記について …… 5

◆ 第２章　ご利用になる前に

- 緊急地震速報とは …… 13
- 注意事項 …… 13
- 緊急地震速報の発信条件 …… 14
- 必要ネットワークについて …… 14
- 地震発生時の定義とその状況 …… 15
- 日ごろからの対策 …… 16
- 実際に地震が発生した場合の行動要領 …… 17
- 梱包内容の確認 …… 18

◆ 第３章　各部の名称

- 各部の名称（前） …… 19
- 各部の名称（後） …… 20
- 各部の名称（左、右） …… 21
- 各部の名称（上、下）① …… 22
- 各部の名称（上、下）② …… 23

◆ 第４章　機器の設置と接続

- 設置する前に …… 24
- 機器の設置方法 …… 25
- 動作確認 …… 26
- 機器の接続方法 …… 27

◆ 第５章　画面の表示

- 画面の移動方法 …… 28
- 「基本画面」の表示内容 …… 29
- 「地震予報」表示内容 ① …… 30
- 「地震予報」表示内容 ② …… 31
- 「地震履歴」表示内容 …… 32
- 「設置情報」表示内容 …… 33
- その他の表示内容 …… 34
- 「設定画面」表示内容 …… 35

目 次

◆ 第６章　機器の操作

- 「地震履歴」の参照操作 …… 38
- 「設定」画面でのボタン操作 …… 39
- 「テスト」報知を行う …… 40
- 連動確認 …… 41
- 「予報震度」の設定 …… 42
- 「予報表現」の設定 …… 43
- 「通過地震」の設定 …… 44
- 「訓練報」の設定 …… 45
- 「深発地震」の設定 …… 46
- 「キャンセル報」の設定 …… 47
- 「接点出力」の設定 …… 48
- その他の設定 …… 49
- 外部接続端子について …… 50
- 定期点検 …… 51

◆ 第７章　困ったときは

- トラブルシューティング …… 52

◆ 第８章　オプション

- オプションサウンドユニット（品番：SH200-J-S） …… 54

◆ 第９章　気象庁ガイドラインに対する本機器の動作説明 …… 55

◆ 保証書 …… 59

◆ 保証規定 …… 60

◆ ご注意 …… 61

◆ 仕　様 …… 64

REIC

緊急地震速報を利活用する装置は、受信情報を正しく処理し利用者の地震防災に有益な情報を提供できるよう、技術基準を制定してその適合性を確認する必要があります。

RREIC 認証は、リアルタイム地震情報利用協議会（RREICと称する）が関連機関や学識経験者の協力の基に、緊急地震速報の利活用に係わる装置などにつき技術基準と品質基準を定め、製造された利活用装置などの適合性を公正かつ厳正に審査して認証し、緊急地震速報の円滑な利活用の推進を図ることを目的としたものです。

本製品は、上記の認証を取得したシステムの受信端末です。

1 安全上のご注意

■ 安全にお使いいただくために

本取扱説明書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本取扱説明書を熟読してください。特に「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また、本取扱説明書は本製品を使用中いつで、ご覧になれるよう大切に保管してください。

◆ 保証書について

- 保証書は、必ず必要事項を記入し内容をお読みください。その後、大切に保管してください。
- 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無償で修理または交換いたします。
- 保証期間内にあっても。保証書の提示がない場合や天災あるいは無理な使用による故障の場合などには修理交換いたしかねますこと、ご了承ください。(詳しくは、保証規定をご覧ください。)

◆ 本製品の用途について

本製品は、一般事務用、家庭用などの一般用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する、重要な危険性を伴う用途を言います。

- 原始力施設における核反応制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療機器など。

◆ 注 意

1. 本製品は、情報処理等電波被害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラスＢ情報技術設置です。
2. 本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品をラジオやテレビ受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。
3. 本製品は、取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。
4. 本製品には有寿命部品が含まれています。
5. 製品に使用しているアルミ電解コンデンサーは、寿命が尽きた状態で使用続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので早期の交換をお勧めします。
6. 部品の交換は、当社の定める捕修用性能部品単位での修理による交換となります。
7. (電池などの消耗品は、お客様ご自身で新品を購入し、交換していただきます)
8. 本製品の使用環境は、温度0～40℃ (動作時)、温度 -10～60℃ (非動作時)・湿度10～80％ＲＨ（ただし、結露しないこと）
9. 本製品は、日本国内での使用を前提に製造されています。海外では使用できません。
10. 本製品の構成部品(プリント基板、液晶ディスプレイなど)には、微量の重金属（鉛、クロム、水銀）や化学物質 (アンチモン、シアン) が含有されています。
11. 本製品は、電池を取り付けていない場合、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し、不具合を生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

1 安全上のご注意

■ この取扱説明書の表記について

◆ 電源プラグとコンセント形状の表記について

本製品に添付されているＡＣアダプターの電源プラグは「平行２極プラグ」です。
本書では「電源プラグ」と表記しています。
接続先のコンセントには「平行２極プラグ（125V15A）用コンセント」をご利用ください。本書では「コンセント」と表記しています。

◆ 安全にお使いいただくための絵記号について

本取扱説明書では、いろいろな絵記号を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、ご利用のお客様自身や他の人々に加えられる恐れのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを表しています。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを表しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを表わしています。

1 安全上のご注意

また、危害の内容がどのようなものかを表わすために、前ページの絵記号と同時に次の記号を使っています。

⚠で表した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。
その横には、具体的な警告内容が示されています。

⃠で表した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。その横には、具体的な禁止内容が示されています。

❗で表した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。
その横には、具体的な禁止内容が示されています。

◆ 異常や故障のとき

⚠ 警 告

本製品から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、すぐにＡＣアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、異常な現象がなくなったことを確認して、お問合せ窓口に連絡ください。
異常事態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

本体の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐにＡＣアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、異常な現象がなくなったことを確認して、ご連絡ください。
異常事態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

ＡＣアダプターの本体やケーブル、電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

1 安全上のご注意

◆ 設置されるとき

⚠ 警 告

使用できる電源は交流100Vです。
それ以外の電圧では使用しないでください。
電圧の大きさにより内部が過熱したり、劣化して感電・火災の原因になります。

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。
コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。

梱包に使用している袋類は、お子様の手の届くところに置かないでください。
口に入れたり、頭にかぶったりすると窒息の原因となります。

外部制御機器と接続される時は、本取扱説明書および外部制御機器の取扱説明書をよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。
また、本体および外部制御機器が故障する原因となります。

1 安全上のご注意

⚠ 注 意

振動している場所や傾いた場所などの不安定な場所に置かないでください。
本製品が落下して、けがの原因となります。

本製品を移動する場合は、必ずＡＣアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続されたケーブルなども外してください。作業は足元に充分注意して行ってください。
ＡＣアダプターの電源コードが傷つき、感電・火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

◆ ご使用になるとき

⚠ 警 告

濡れた手でＡＣアダプターの電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

ＡＣアダプターの電源プラグにドライバーなどの金属を近づけないでください。
感電・火災の原因となります。

ＡＣアダプターは、次のことに注意してお取り扱いください。
感電・火災もしくは発熱によるやけどの原因になることがあります。

- **絶対に分解しないでください。**
- **浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所のそば、湿気の多い 地下室、水泳プールのそばやほこりの多い場所で使用しないでください。**
- **水に濡らしたり、濡れた手で触れないでください。**
- **布団の上や中など熱がこもるような環境で使用したり、放置したりしないでください。**
- **上に物を置かないでください。**
- **必ず付属のコードセット（電源コード）を使ってください。**
- **他の機器に使用しないでください。**

マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、本機器の近くで使わないでください。
本機器の中に入って引火すると火災の原因となります。

1 安全上のご注意

浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機、水を使用する場所のそば、湿気の多い地下室、水泳プールのそばやほこりの多い場所では使用しないでください。
電気絶縁の低下によって感電・火災の原因となります。
本体内部にほこりがたまることによって、精密部品の冷却を妨げ、故障やけどの原因となります。

本製品の上や周りに、花びん・コップなど液体の入ったものを置かないでください。
水などの液体が本製品の内部に入って、感電・火災の原因となります。

コネクタなどの開口部から、本製品の内部に金属物や紙などの燃えやすいものを差し込んだり、入れたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

取り外したキャップなどの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

雷が鳴り出したら、本体やケーブル類に触れないでください。
感電・火災の原因となります。
雷が鳴り出しそうなときは、ＡＣアダプターやケーブル類を取り外し、雷が鳴り止むまで取り付けないでください。

添付もしくは指定された物以外のＡＣアダプターの電源コードを本製品に添付のＡＣアダプターや電源コードを他の製品に使ったりしないでください。
感電・火災の原因となります。

ＡＣアダプター本体に電源コードをきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。
電源コードの芯線が露出したり脱線したりして、感電・火災の原因となります。

本製品をお客様ご自身で修理・分解・改造しないでください。
感電・火災の原因になります。修理や点検などが必要な場合は、お問合せ窓口にご連絡ください。

ＡＣアダプターの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源コードや電源プラグが傷つき、感電・火災の原因となります。

1 安全上のご注意

⚠ 注 意

本製品の上に重いものを置かないでください。
故障・けがの原因となることがあります。

本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

本製品を直射日光が当たる場所、ストーブのような暖房器具のそばで使用したり、置いたりしないでください。
感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因となることがあります。

使用中の本体やＡＣアダプターを布などで覆ったり、包んだりしないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

1 安全上のご注意

◆ ご使用になるとき

⚠ 警 告

ＡＣアダプターや電源プラグはコンセントから時々抜いて、コンセントの接続部分およびＡＣアダプターと電源コードの接続部分などのほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。

ほこりがたまったままの状態で使用すると、感電・火災の原因になります。

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因となります。

- **電源プラグは、根元までしっかり差し込んでください。**
- **電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認してから差し込んでください。付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。**
- **グラグラしないコンセントを使ってください。**

本製品の各種端子には弊社または販売元が指定したケーブル、コネクタ以外の物は差し込んだり、挿入しないでください。

故障、感電・火災の原因となります。

温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、感電・火災の原因となります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。

液晶ディスプレイ部の破損

液晶ディスプレイ部はガラスでできています。液晶ディスプレイ部が破損したとき、ガラスの破片には直接触れないでください。けがをするおそれがあります。

目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、本来の目的以外に使用しないでください。壊れたり、倒れたりし、けがや故障の原因となります。

目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、本来の目的以外に使用しないでください。壊れたり、倒れたりし、けがや故障の原因となります。

1 安全上のご注意

信号ケーブルについて

- ケーブルは足などに引っかけないように、配線してください。
- 足を引っかけると、けがや接続機器の故障の原因となります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
- ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因となります。

電波障害について

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響をおよぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合は、次のようにしてください。

- テレビやラジオなどからできるだけ離す。
- テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
- コンセントを別にする。

心臓ペースメーカーを装着時の使用

心臓ペースメーカーの装着部分から 22cm 以上離してご使用ください。
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

◆ その他

⚠ 警告

本製品または電池の廃棄については、一般廃棄物の扱いとなります。
各地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理および清掃に関する法律」の規則を受けます。
本製品はリチウム電池を使用しており、一般のゴミと一緒に火中に投じると破裂のおそれがあります。

2 ご利用になる前に

■ 緊急地震速報とは

- まず地震の揺れの仕組みは地震が発生するとＰ波（初期微動）およびＳ波（主要動）と呼ばれる２つの波が地中を伝播します。この波の伝播速度はＰ波のほうがＳ波より速いため、初めにＰ波が伝わり、それから「主要動」と呼ばれる大きな揺れをもたらすＳ波が伝わってきます。
- 日本全国にある約1,000ヵ所の地震計を利用し、地震発生時には震源に近い観測点（地震計）でこのＰ波をとらえます。そのデータから直ちに震源（経度･緯度）、地震の規模（マグニチュード）を推定し、これを情報として迅速に利用者に提供するシステムを「緊急地震速報」と言います。
- 本製品はこの情報を受信し、設置している地点の各種情報（経度、緯度、地盤増幅度※1）をもとに実際に起こる地震の大きさ（震度）と到達までの時間（猶予時間）を予測演算し予報を行います。

※１　地盤増幅度 … 表層地盤の構造（硬さ）をもとに揺れの伝わる割合を表わすものです。

■ 注意事項

緊急地震速報（予報）の原理的限界等のため、情報のご利用に当っては、次のようなおそれがありますので、事前の十分なご理解が不可欠です。予めご了承下さい。

1. 震度、到達猶予時間などの予測演算数値には誤差があります。
2. 緊急地震速報の報知から大きな揺れが到達するまでの時間は、長くても十数秒から数十秒と極めて短い時間です。
3. 震源に近いところでは地震到達までに緊急地震速報が間に合わないことがあります。（直下型）
4. ごく短い時間のデータだけを使った情報であることから、予測結果に誤差を伴う場合があります。（報知しない場合があります。）
5. 震源の深さが150km 以上深い場合（深発地震）は予測結果に大きな誤差を含む事があります。（報知しない場合があります。）
6. 短い間隔で複数の地震が発生した場合、震源の特定が困難となり予測結果に大きな誤差を含んだり予測できない事があります。（複数地震の同時発生、報知しない場合があります。）
7. 落雷、事故、機器の故障等により、誤報を発生する可能性があります。
8. 気象庁が実施する訓練報に関してはお客様自身が訓練の内容および配信日時等を確認の上対応してください。
9. 緊急地震速報は、サービス品質および、正確性（地震発生時に必ず情報が伝達および、報知されること、情報の伝達が地震の到達の前に必ず間に合うこと、誤報、誤差が生じないことを含む）について一切保証されません。
10. 緊急地震速報について十分理解し、日頃から、地震を想定した行動マニュアルの整備や、定期的な避難・防災訓練の実施に努めてください。

2 ご利用になる前に

■ 緊急地震速報の発信条件

- 気象庁の多機能型地震計設置のいずれかの観測点において、Ｐ波またはＳ波の振幅が100ガル以上となった場合。(※1)
- 解析の結果、震源・マグニチュード・各地の予測震度が求まり、そのマグニチュードが3.5以上、または最大予測震度が3以上である場合。なお、この基準は変更する場合があります。

※1…1点の観測点のみの処理結果によって緊急地震速報を発信した後、所定の時間が経過しても2観測点目の処理が行われなかった場合はノイズと判断し、発表から数秒～10数秒程度でキャンセル報（予報の取消し）を発信します。島嶼部など観測点密度の低い地域では、実際の地震であってもキャンセル報を発信する場合があります。なお、この場合には、キャンセル報の発信までに30秒程度がかかることがあります。

■ 必要ネットワークについて

接続にあたって必要となるネットワーク環境、および機器類（ルーター・ハブ等）はお客様にてご用意ください。

1. インターネット常時接続回線が必要です。
（ＡＤＳＬ、ＦＴＴＨ、ＣＡＴＶなど、ダイヤルアップ以外）
2. ご家庭内ＬＡＮ環境でのＩＰアドレスの取得が自動になっていること。
（ＤＨＣＰ有効設定）
3. ご使用のプロバイダーにてＴＣＰ「9001」ポートが開放されていること。
4. その他、ファイヤーウォールなどの設定をしていないこと。

本製品は、お客様の地震による被害を極力少なくするためのものであり、お客様の財産や命を守るためのものではありません。実際に地震が発生した時のために、避難経路などを確認し、日頃から地震対策を十分に行ってください。

緊急地震速報の受信は、お客様自身の自己責任でなされるものであり、弊社および販売元は、使用によって発生したいかなる損害（速報内容の誤報により生じた損害を含み、直接損害・間接損害の別を問わない）やその修理費等に関して、一切の責任を負いません。

■ 地震発生時の定義とその状況

震度０	人は揺れを感じない。
震度１	内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。
震度２	• 室内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。 • 電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。
震度３	• 室内にいる人の多くが、揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。 • 棚にある食器類が、音を立てることがある。
震度４	• かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を図ろうとする。 • 眠っている人のほとんどが、目を覚ます。 • つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。 • 歩いている人も揺れを感じる。
震度５弱	• 多くの人が、身の安全を図ろうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。 • つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。 • 窓ガラスが割れて落ちることがある。 • 電柱が揺れるのがわかる。 • 補強されていないブロックが崩れることがある。
震度５強	• 非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。 • 棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。 • 補強されていないブロック塀の多くが崩れる。 • 据え付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。 • 多くの墓石が倒れる。自動車の運転が困難となり、停止する車が多い。
震度６弱	• 立っていることが困難になる。 • 固定していない多くの重い家具が移動、転倒する。 • 地割れや山崩れなどが発生することがある。 • かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損・落下する。
震度６強	• 立っていることができず、はわないと動くことができない。 • 多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損・落下する。 • 補強されていないブログ塀のほとんどが崩れる。
震度７	• 揺れに翻弄され自分の意志で行動できない。 • ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。 • 大きな地割れ、地すべりや山崩れが発生し、地形が変わることもある。

■ 日ごろからの対策

地震は、いつどのような規模で起こるかわかりません。
せっかくの緊急地震速報も、事前の準備ができていなければ利用価値が半減してしまいますので以下を参考に、お客様自身で事前の準備を十分に行ってください。

- 家具が倒れたり、上にあるものが落ちたりすると、けがをするばかりでなく、避難時の障害にもなります。市販の固定器具などを利用し、家具の固定・転倒防止をしておきましょう。また、棚の上のものは容易に落下しないようにしておきましょう。
- 寝室など常時いるような場所は、倒れやすいものを置かず、避難経路を確認しておき、非常時はすぐに避難できるようにしておきましょう。また、近くに靴やスリッパを常備しておきましょう。
- 非常時の用意
  消火器・ハンマー等、避難経路の確保に必要なものは、すぐに取り出せる所にひとまとめにしておきましょう。
- 非常時の持ち出し品の用意
  食料品関係・貴重品・衣類・靴・防災用品・照明器具・医療用品・携帯電話・簡易充電器なども、すぐに持ち出せるようにまとめておきましょう。
- 家族で話し合いをして、非常時の避難経路場所を決めておきましょう。

■ 実際に地震が発生した場合の行動要領

◆ 緊急地震速報の受信時、および地震発生時

まずは身の安全の確保	周りの人に地震が来ることを知らせながら、倒れやすい家具などから離れ、丈夫なテーブル・机の下に隠れてください。
火元の始末 （そばに居る場合）	ガスコンロなどの火を止める。また、電熱ヒーターなどの熱源となる機器の電源も切ってください。

◆ 地震発生後（揺れが収まったら）

避難経路の確保	**避難の開始**	• ガスの元栓を閉め、ブレーカーも切ってください。 • 家に避難先や安否情報をメモしたものを残していくようにしてください。 • 避難は、必ず徒歩で行い、車などの使用を避けてください。 • 割れたガラスなどに注意してください。また、漏電・ガス漏れにも注意してください。
	火の始末	火が出ているのであれば、すぐに初期消火してください。一人で手に負えないようであれば、すぐに近所に協力を求めるようにしてください。

◆ 家族および周りの人の無事を確認

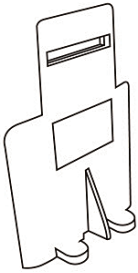
正しい情報収集	デマ情報に惑わされず、テレビ・ラジオ等で正しい情報を得て、的確に行動するようにしてください。
余震に注意	比較的大きな地震が発生すると、その近くで再び地震が発生します。この地震のことを「余震」と言います。大きな地震が収まったからといって、倒れやすいもののそばに近寄ったりしないでください。

2 ご利用になる前に

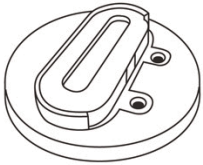
■ 梱包内容の確認

以下に梱包品の一覧を表示します。開封時に内容を確認してください。

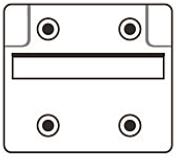
●本体×1個



●スタンド後部 ×1個

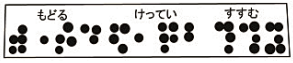


●スタンド土台×1個



●壁掛け用ブラケット×1個

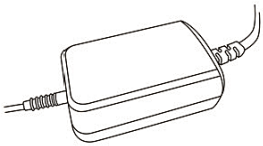
●電池(CR123A)×2本



●点字パネル×1枚

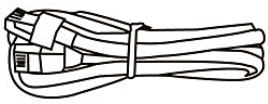
●壁掛け用ねじ×5本

●バーコードラベル×2本



●ACアダプター×1個

●スタンド用ねじ×3本



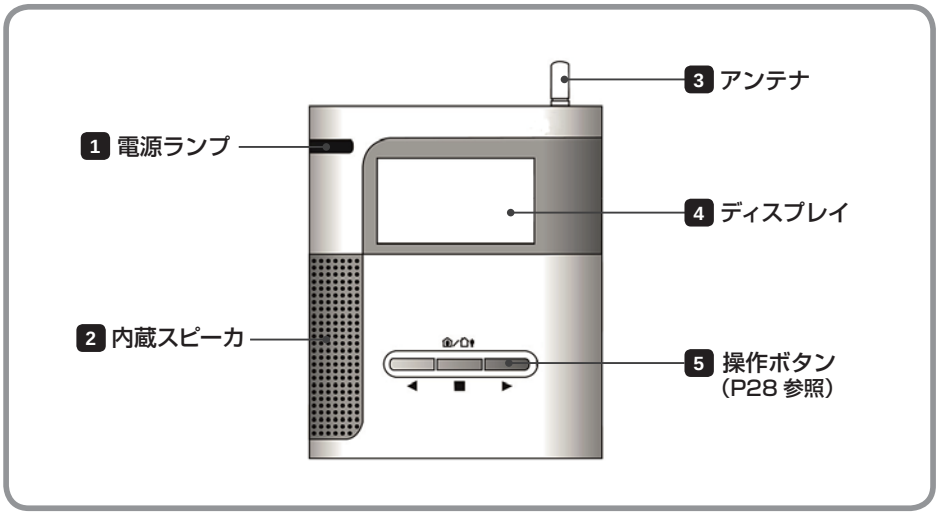
●LANケーブル2m×1本

●コード固定具(樹脂製)×3個

●簡易説明書×1枚

3 各部の名称

■ 各部の名称（前）



1 電源ランプ

ＡＣアダプターからの通電により点灯します。
また、通信異常時と地震が発生時に点滅します。

※ 電池のみで動作している時は消灯します。

2 内蔵スピーカー

操作ボタンの操作音や地震予報を報知します。

3 アンテナ

オプション機器である「サウンドユニット」に地震予報信号を送ります。

4 ディスプレイ

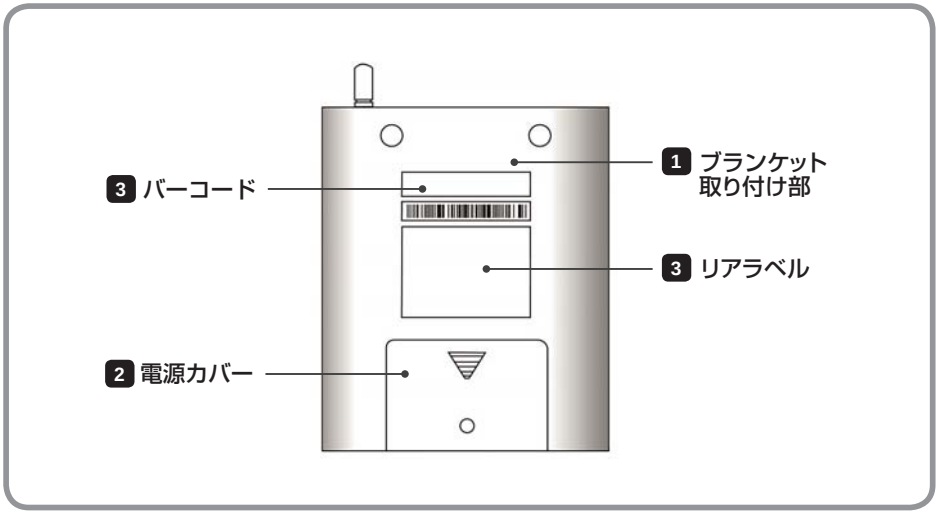
各種の情報を表示します。（表示内容については、「**第５章 基本画面の表示内容（P29）**」を参照）

5 操作ボタン

表示内容の切り替えや各種設定を行います。

3 各部の名称

■ 各部の名称（後）



1 ブラケット取り付け部

同梱の壁掛け用ブランケットまたはスタンドに固定する際にはこの部分を掛けます。

2 電池カバー

この中にバックアップ用の電池を装着します。（ＣＲ123Ａ×２本）

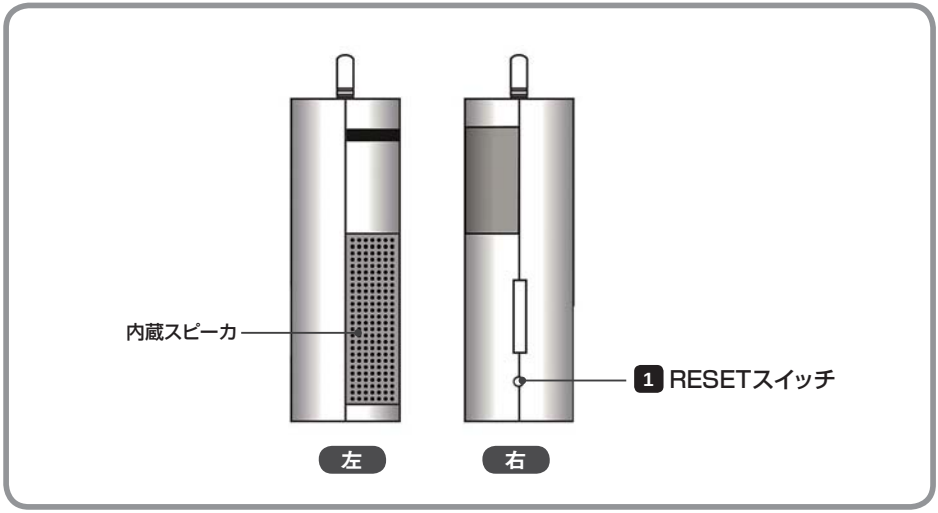
※ 電池は寿命がありますので、定期的な点検や交換が必要です。
電池残量についてはディスプレイ左上の表示を目安にしてください。

3 リアラベル ／ バーコード

本製品のＩＤなどが記載されています。

3 各部の名称

■ 各部の名称（左、右）

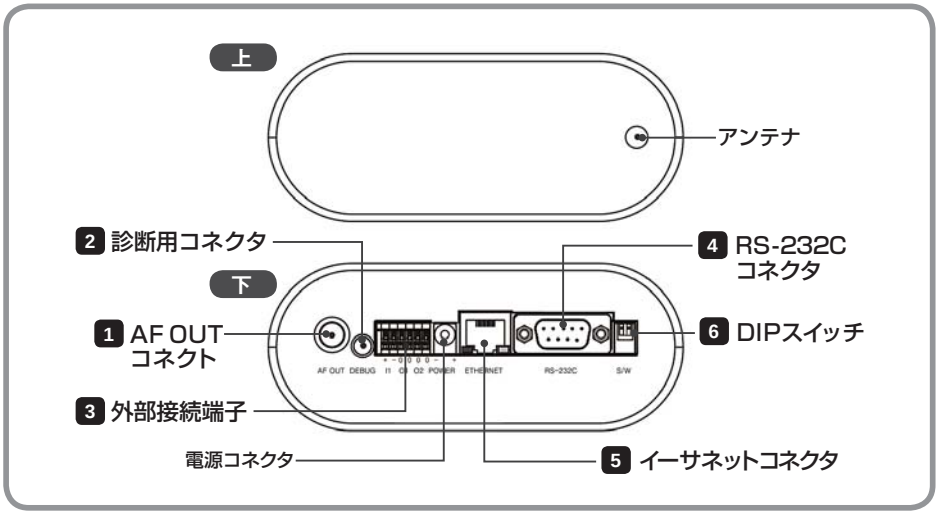


1 RESETスイッチ

本機器の内部プログラムを強制的に再起動させるスイッチです。
押すときは先端の細長い物で軽く押してください。

3 各部の名称

■ 各部の名称（上、下） ①



1 AF OUTコネクト

外部スピーカーを使用する際、アンプと接続します。

2 診断用コネクタ

端末診断のための端子です。（お客様ではご利用できません）

※ 診断用コネクタにイヤフォン等を挿入しないでください。故障の原因となることがあります。

3 外部接続端子

外部制御をする機器を接続します。詳細は「**第６章.外部接続端子について（P50）**」を参照してください。

※ 弊社および販売元の指定業者の指示なく外部接続端子に接続しないでください。
本機器や接続された機器の故障の原因となることがあります。

3 各部の名称

■ 各部の名称（上、下）②

◆ RS-232Cコネクト

外部制御拡張用です。（お客様ではご利用できません）

※ 弊社または販売元の指定業者の指示なく他の機器と接続しないでください。
接続した機器や本製品の故障の原因となることがあります。

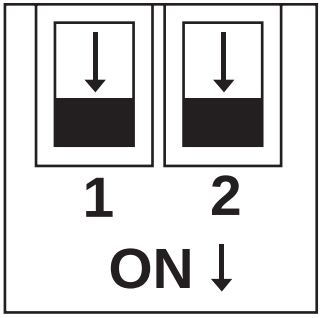
◆ イーサネットコネクト

インターネットに接続するためにＬＡＮケーブルを接続します。（ネットワーク設定が必要な場合は、ご契約のプロバイダーへお問い合わせください。）

◆ DIPスイッチ

端末設置用スイッチです。お客様では触らないでください。

※ 設置変更は行わないでください。正常動作しなくなります。



DIPスイッチの標準位置（出荷時）

※ 指定業者については、お問い合わせ窓口へお問い合わせください。

4 機器の設置と接続

■ 設置する前に

本機器はお客様の購入した機器のＩＤと住所などの情報がサーバーに登録されないと正常に動作（地震予報を報知）しませんので、必ずユーザー登録を行ってください。

また、ユーザー登録は別途用意されたユーザー登録方法に記載の各指示に従って登録してください。

◆ ユーザー登録方法

1. 同梱しているバーコードラベルをユーザー登録用紙・保証書に貼付してください。
2. 登録用紙・保証書ともに必要事項を記入してください。
3. 登録用紙に記載しているいずれかの方法により、ユーザー登録を行ってください。

※ 登録の際必要となる通信費用につきましてはお客様のご負担となります。

※ バーコードを貼付した保証書と登録用紙は大切に保管してください。

※ サーバーへの登録が完了いたしますと、情報受信ができるようになります。登録完了の通知はいたしかねます。
登録の状況は端末の表示を参照し確認してください。また、情報受信を継続する場合はこちらからご案内した方法で「サーバー利用料」の入金を行ってください。
ご入金が一定期間確認できない場合は、対象の端末に対しての情報配信を停止させて頂く事がございますことご了承ください。

4 機器の設置と接続

■ 機器の設置方法

◆ 接 続

1. すでにお客様が用意されたルーターまたはハブと本体を、ＬＡＮケーブルで接続してください。
   ※ 必ずＬＡＮケーブルを接続してから電源を接続するようにしてください。
2. 付属のＡＣアダプターを接続してください。
3. 電池を装着してください。

- 一般家庭のネットワーク構成では特別な設定は不要です。
- 電源を入れて3分以内に基本画面（Ｐ29 参照）が表示されない場合、お問い合わせ窓口にご連絡ください。詳しくは「**第4章　機器の設置と接続（Ｐ24）**」を参照してください。

◆ 設 置

付属の壁掛け用ブラケットまたはスタンドを利用し、落ちたり倒れたりしないよう確実に設置してください。

- スタンドの組み立て
  本体をテーブルなどに置く場合は、同梱しているスタンド土台の上にスタンド後部を立たせて、プラスドライバーを使って土台の下面からねじで確実に固定します。
  ※ スタンドの組み立て後、土台にＬＡＮケーブル、電源ケーブルを通して本体と接続し、スタンド後部に掛けて固定してください。
  ※ スタンド後部の差し込みが不十分であったり、ねじをしめすぎたりすると、ねじ穴が破損し固定ができなくなりますのでご注意ください。

- 壁掛け用ブラケットの固定
  本体を壁に掛ける時は、同梱の「壁掛け用ブラケット」を両面テープと４本のねじでプラスドライバーを使ってしっかり壁に固定したのち、本体の後面のブラケット取り付け部を掛けてください。

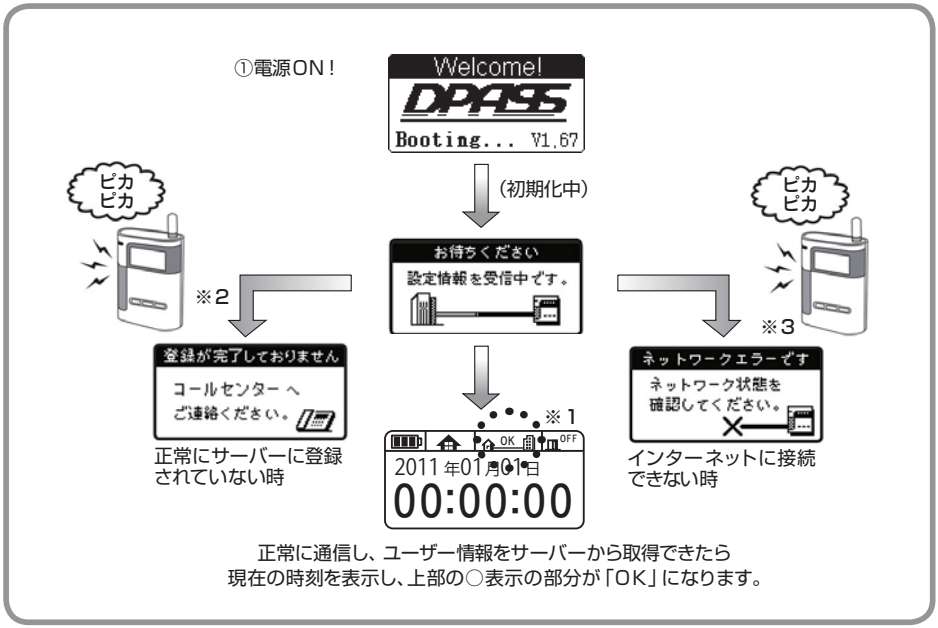
- 点字ステッカーは、必要な方のみ本体操作ボタンの下側に貼り付けてください。

- 誘導雷対策として、予め同軸ケーブル、電源アダプタ、オプション等の接続の際にアレスタ、雷防止タップ等の雷サージ対策を行うことをお勧めいたします。

4 機器の設置と接続

■ 動作確認

- ユーザー登録手続きが終わりましたら、前ページの設置方法に従ってＬＡＮケーブルを接続したのち、ＡＣアダプターをコンセントに接続してください。
- 電源投入後、次のような画面の流れを確認してください。



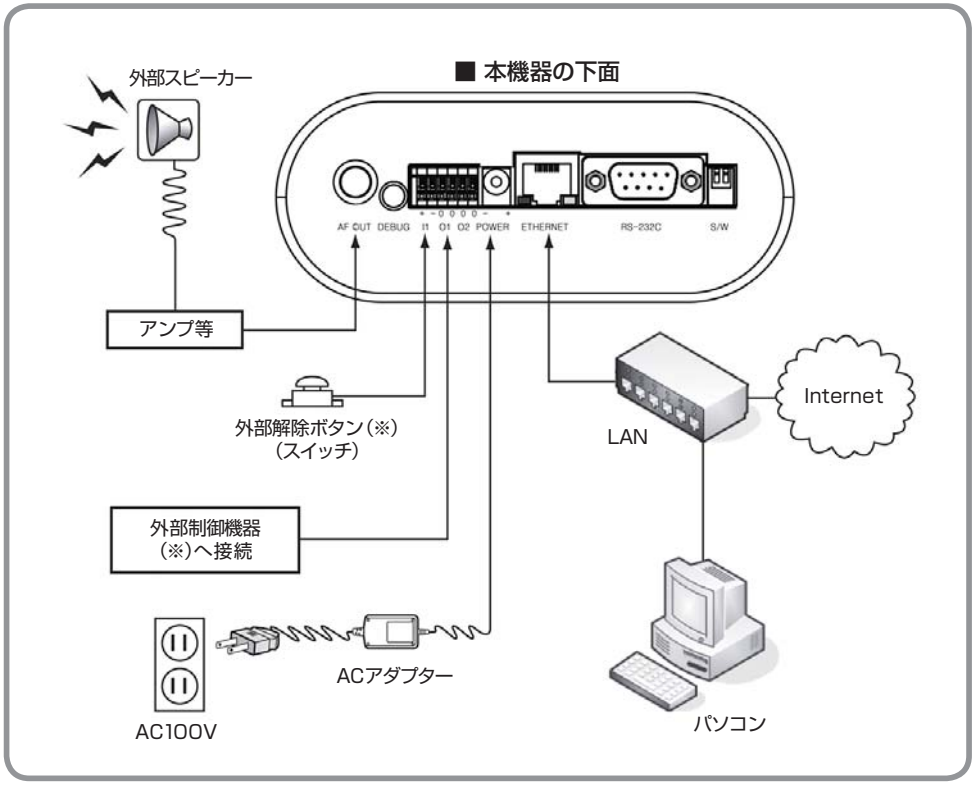
電源が入ると、「電源ランプ」が点灯して約３分以内に現在時刻が表示され、（※1）の 表示の部分が「ＯＫ」となります。ここまで正常に立ち上がると本機器は問題なく動作していますので、本書の説明に従ってお客様の好みの設定に合わせてお使いください。

※2…まだお客様のユーザー登録手続きが完了していません。ユーザー登録を行ってください。すでに登録手続きをした方の場合は登録作業中ですので、あと２～３日お待ちください。表示内容が上記と違う場合は、大変申し訳ございませんが、お問い合わせ窓口へお問い合わせください。

※3…お客様のネットワーク環境のチェックが必要となります。契約しているプロバイダーへお問い合わせください。

4 機器の設置と接続

■ 機器の接続方法



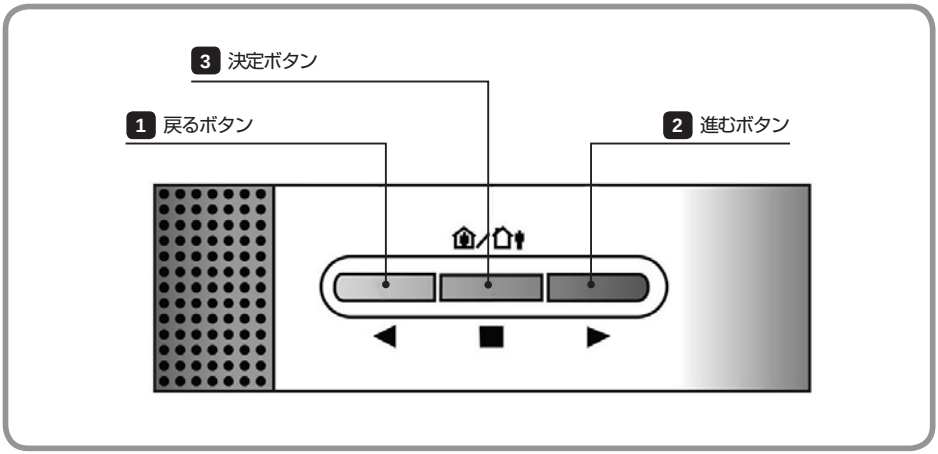
※ 外部制御機器および外部解除ボタンの設置・配線に関してはお問い合わせ窓口にご依頼ください。お客様が直接取り付けになった場合は、それに伴う機器の破損、故障などについて、弊社または販売元は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

5 画面の表示

■ 画面の移動方法

◆ ボタン操作

本機器は３個のボタンがあります。ボタンを押すときは軽く押してください。



1 戻るボタン

前の画面に移動します。

2 進むボタン

次の画面に移動します。
２秒長押しをすることによって設定画面（P35 参照）に移行します。

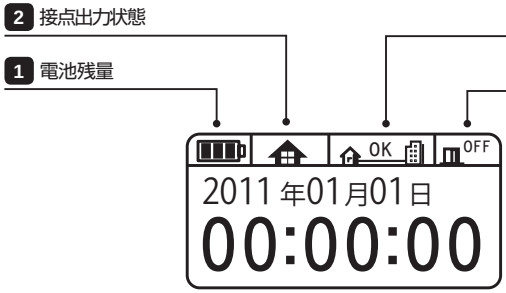
3 決定ボタン

地震履歴表示中は基本画面に戻ります。
また設定画面では選択矢印▶が指示している項目を選択します。

※ 弊社および販売元の指定業者の指示なく外部接続端子に接続しないでください。
本機器や接続された機器の故障の原因となることがあります。

5 画面の表示

■ 「基本画面」の表示内容



1 電池残量

バックアップ用の電池残量を表示します。

2 接点出力状態

接点出力の状態を表示します。

※ 接点出力「無し」時は外部接続機器の制御を行いません。ただし、AF出力から音声信号は出力されます。

接点出力「無し」

接点出力「有り」

3 サーバーとの接続状態

本機器と地震速報電文を配信するサーバーとの接続状態を表示します。

※「OK」と表示されている時が正常な状態です。

正常通信時

通信エラー時

4 外部接続端子状態

外部接続端子に接続したスイッチ（解除ボタン）のON/OFF状態を表示します。

5 画面の表示

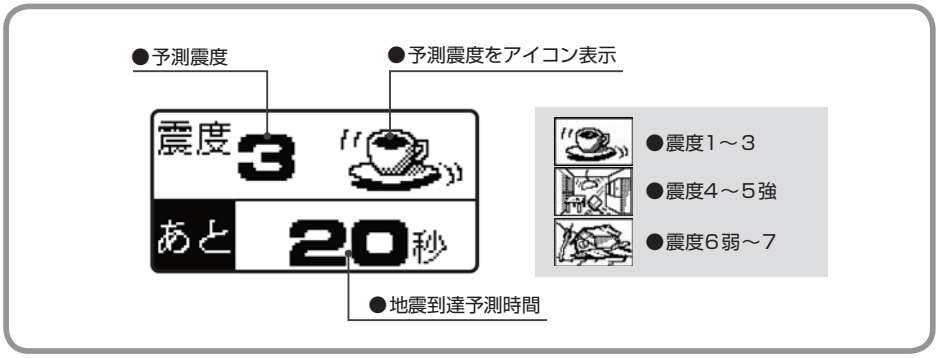
■ 「地震予報」表示内容 ①

◆ 地震予報（予報報知）中

実際の地震を感知し、予測震度が設定値（※1）以上になったときに表示します。
また、同時に音声による報知を行います。次の内容が確認できます。

- 予測震度表示
- 地震到達時間のカウントダウン

※1…設定値「**第5章　予報レベル（P36）**」を参照してください。



◆ 地震予報終了（カウントダウン終了）後

予報内容を表示します。なお、地震情報は履歴として保存されます。（P32 参照）

※　実際の予報後は、予報確認を行わなければ機器の操作は一切できません。
※　報後は内容確認後、決定 ■ ボタンを押して基本画面（時計表示）に戻してください。

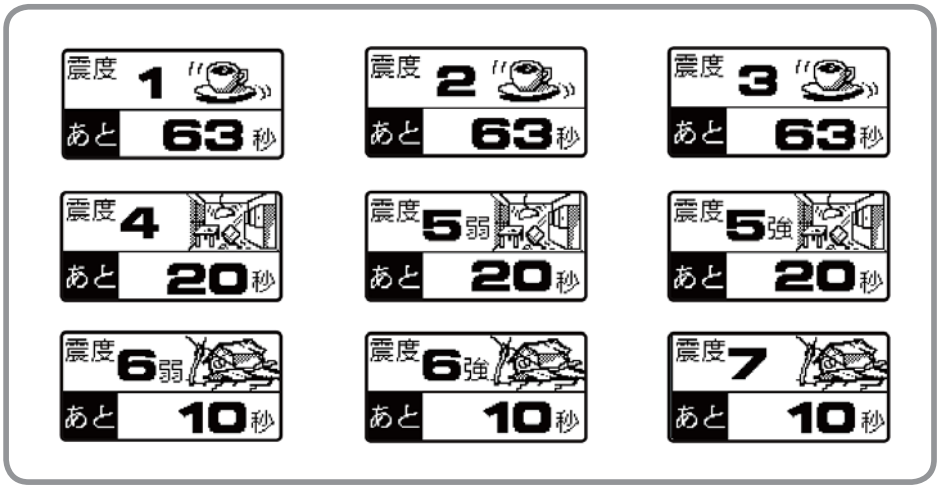
■ 「地震予報」表示内容②

◆ 地震予報画面の詳細

機器の操作途中でも地震予報を行います。この時、音声案内は設定した表現（※1）により「地震震度X、XXX揺れが来ます」のように案内しカウントダウンが始まります。

※1…設定した表現 「**第6章 予報表現の設定（P43）**」を参照してください。

注：地震予報の報知中は、ボタン操作ができません。



機器の操作中であっても、本機器がサーバーから地震速報を受信した場合は予報を行います。
予報と同時に外部接続端子が作動します。（接点出力「有り」設定時）

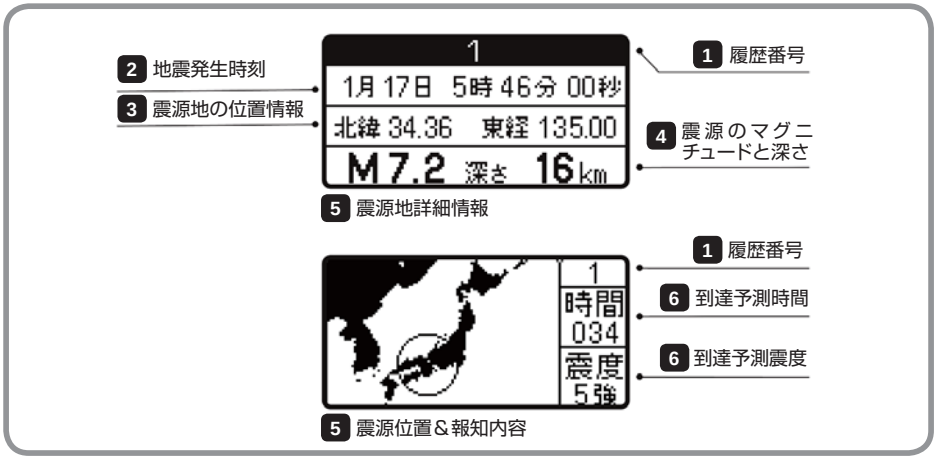
◆ キャンセル報について

ごくまれに緊急地震速報を送った後にその速報自体をキャンセル（取り消し）する速報が流れる場合があります。
このキャンセル報を受信しますと「緊急地震速報を解除します。」という音声通知を行います。外部機器を接続している場合は、それぞれの取り扱い説明書に従い通常動作モードへ戻してください。
なお、本機器はキャンセル報の受信可否の選択ができます。（「**第６章 キャンセル報の設定（P47）**」を参照してください）

5 画面の表示

■ 「地震履歴」表示内容

本機器は、過去に発生した４件の地震情報（受信電文情報の内、端末で予報した時のみ）を履歴として表示できます。



1 履歴番号

最新の情報を履歴番号「１」として登録します。複数件になった場合は「２→３→４」と順次表示します。履歴が５件以上になった場合は、古い履歴から削除します。
電源・ネットワーク接続が外れた場合は、履歴が消去されます。履歴情報を漏れなく記録したい場合は、デジタルカメラなどで履歴画面を撮影して記録されることをお勧めいたします。
（撮影時にフラッシュは絶対に使用しないでください）

2 地震発生時刻

地震が発生した日時を表示します。

3 震源地の位置情報

震源地の位置情報を北緯、東経で表示します。

4 震源のマグニチュードと深さ

震源のマグニチュードと深さを表示します。

5 震源位置

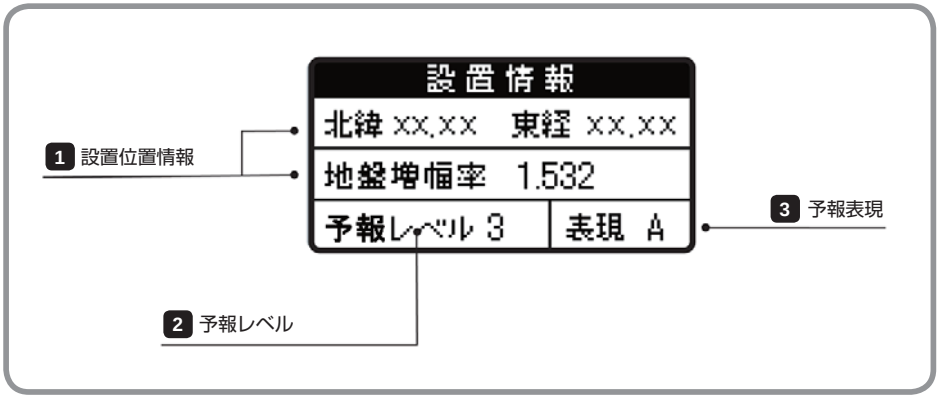
詳細情報で表示した震源地を地図上で表示します。サークルの中心が震源地になります。

6 到達予測時間・到達予測震度

実際に報知した予測内容を表示します。

5 画面の表示

■ 「設定情報」表示内容



1 設置位置情報

お客様が本機器を使用するにあたりユーザー登録した住所の固有情報（緯度、経度、地盤増幅度）を表示します。

※ 初回起動時（電源投入時）に弊社サーバーから情報受信をして自動でダウンロードされます。（お客様による設定変更はできません）

※ 本機能は手動設定できません。

2 予報レベル

予報レベルに設定されている震度以上を予測したときに予報を鳴らします。

※ 本項目は設定画面で設定できます。
（出荷時はレベル3としてあります。P36 参照）

3 予報表現

地震予報を報知する時の表現方法を表示します。

A：詳細表現 … 予報の内容を数値で表現します。
B：曖昧表現 … 予報の内容を言葉で表現します。
（例：物が倒れるぐらいの揺れがまもなく来ます）

※ 出荷時はA（詳細）としてあります。

※ 本項目は設定画面で設定できます。（P36 参照）

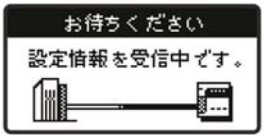
5 画面の表示

■ その他の表示内容

◆ 基本画面

電源投入時、あるいは本機器の初期化を行っているときに表示します。

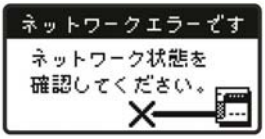
◆ 接続確認画面



初期化の後、インターネットを経由しサーバーから設定情報を受信しているときに表示します。

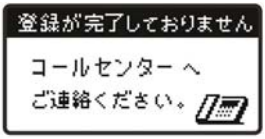
※ 接続ができないとエラー画面が表示されます。

◆ エラー画面



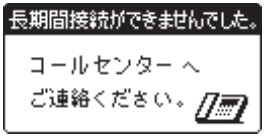
「ネットワークエラーです」

お客様のネットワーク環境に問題がありサーバーと通信できないときに表示します。
お客様のネットワーク環境のチェックが必要となります。ご契約しているプロバイダーへお問い合わせください。



「登録が完了しておりません」

サーバーと通信はできていますが、ユーザー登録が完了していません。登録手続きを行ってください。それでも解決しない場合は、お問い合わせ窓口にお問い合わせください。



「長期間接続ができませんでした。」

サーバーと長期間通信がでなかった場合に表示されます。この場合は、速やかにお問い合わせ窓口にお問い合わせください。

5 画面の表示

■ 「設定画面」表示内容

「設定」画面１

「設定」画面２

◆ 各種設定画面

操作ボタンより、以下の操作が可能です。

①配信テスト
②連動確認
③予報震度の設定
④予報表現の設定
⑤通過地震の設定
⑥訓練報の設定
⑦深発地震の設定
⑧キャンセル報の設定
⑨接点出力の設定
⑩画面コントラストの設定
⑪ボリュームの設定
⑫ＲＦ出力の設定

「震度３配信テスト」画面

テスト 3

① 配信テスト

震度３、震度５強、震度７の「配信テスト」を選択すると予報のテスト報知を行います。
（設定方法については、Ｐ40 参照 ）

「震度５強 配信テスト」画面

テスト 5強

「震度７配信テスト」画面

テスト 7

「連動確認」画面

連動 確認

② 連動確認

連動確認は、テスト配信を実施せずに放送設備との連動を確認したい時に使用します。テスト配信時に流れるメッセージの代わりに電子オルガン音が流れます。
（ 設定方法については、Ｐ41 参照 ）

「予報震度」画面

予報震度

③ 予報震度

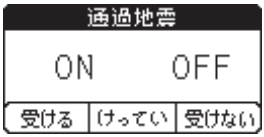
この画面に表示される震度以上の予報結果が出た時に報知します。
（ 設定方法については、P 42 参照 ）

「予報表現」画面

予報表現

④ 予報表現

予報時の表現方法が「詳細」と「曖昧」のどちらに設定されているかを表示します。
（ 設定方法については、P 43 参照 ）



「通過地震」画面

通過地震

⑤ 通過地震

大きな揺れであるＳ波（主要動）の予測猶予時間がマイナスの場合（到達済の地震）に対して報知動作させるかを設定します。
（ 設定方法については、P 44 参照 ）

ON	予測猶予時間が「−10秒」までの地震に対して報知動作を行います。報知音声はマイナス秒の場合であっても「震度ｘ、ゼロ」となります。
OFF	予測猶予時間が「＋1秒」以上の地震に対して報知動作を行います。

※ 本機器の緯度経度設定付近で地震が発生した場合や直下型地震等ではＳ波の到達予測猶予時間が報知動作に間に合わ無い可能性があります。このような場合においても報知動作させたい時は通過地震設定を「ON」にすることで報知動作の許容を拡大することができます。

「訓練報」画面

訓練報

⑥ 訓練報

気象庁の訓練報や配信事業者の配信システムから配信される訓練用の緊急地震速報電文を受けて本機器を報知動作させるかを設定します。
（ 設定方法については、P 45 参照 ）

ON	訓練報による報知動作を行います。
OFF	訓練報による報知動作を行いません。

「深発地震」画面

深発地震

⑦ 深発地震

震源の深さが150km よりも深い地震に対して動作させるかを選択します。
震源の深さが 150km 以遠の場合、予測結果に大きな誤差を含む可能性が高くなります。
（ 設定方法については、P 46 参照 ）

ON	深発地震による報知動作を行います。
OFF	深発地震による報知動作を行いません。

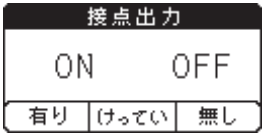
「キャンセル報」画面

「キャンセル報解除」画面

⑧ キャンセル報

キャンセル報受信時に報知動作させるかを選択します。（ 設定方法については、P 47 参照 ）

ON	キャンセル報による報知動作を行います。
OFF	キャンセル報による報知動作を行いません。

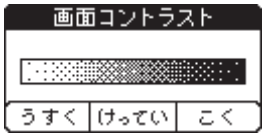


「接点出力」画面

⑨ 接点出力

外部制御機器用の接点出力の有無を設定します。
（ 設定方法については、P 48 参照 ）

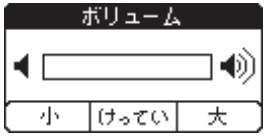
ON	接点出力から接点信号を出力します。
OFF	接点出力から接点信号を出力しません。



「画面コントラスト」画面

⑩ 画面コントラスト

本機器の画面コントラストを設定します。
（ 設定方法については、 P 49 参照 ）



「ボリューム」画面

⑪ ボリューム

「ボリューム」を選択すると本機器のスピーカーから発生する音量の調整ができます。AF 出力のボリューム音量も連動します。
（ 設定方法については、P 49 参照 ）

「RF出力」画面

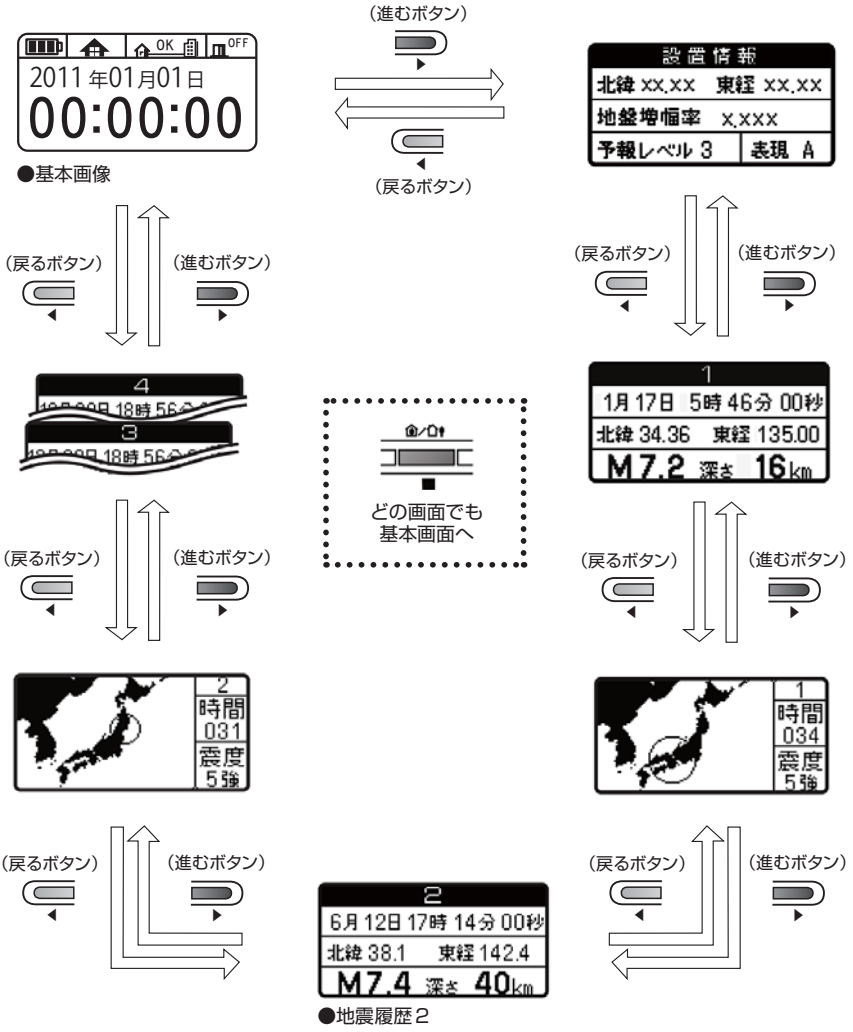
⑫ ＲＦ出力

本製品から子機に対して放出する無線電波をＯＮ／ＯＦＦします。
（ 設定方法については、P 49 参照 ）

※ ＲＦ出力をOFFにすると子機からは予報報知しません。

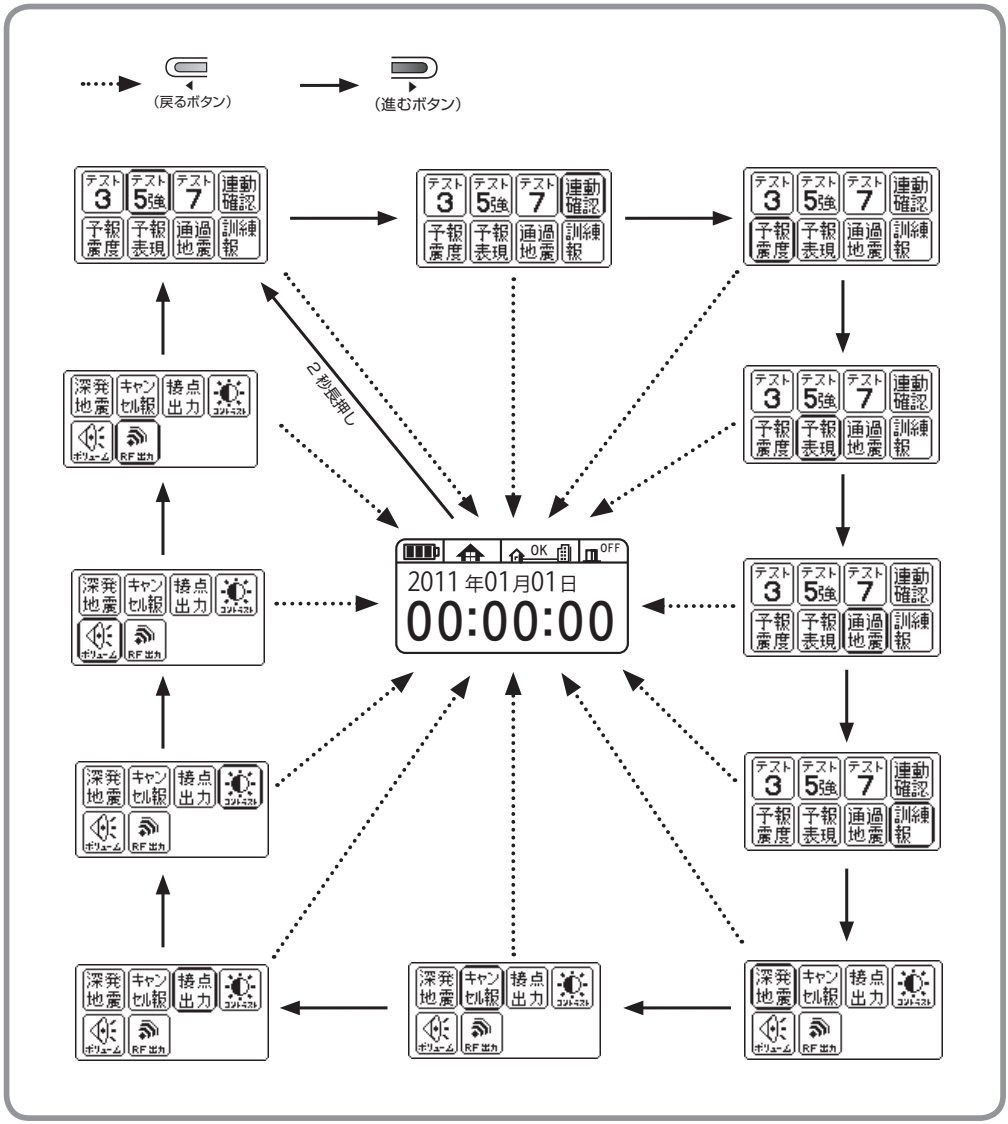
ON	子機向けの無線電波 (RF) を出力します。
OFF	子機向けの無線電波 (RF) を出力しません。

■ 「地震履歴」の参照操作


(進むボタン)
2011年01月01日
00:00:00
OK
OFF
●基本画像
(戻るボタン)
(戻るボタン)
(進むボタン)
設置情報
北緯 xx.xx 東経 xx.xx
地盤増幅率 x.xxx
予報レベル 3 表現 A
(戻るボタン)
(進むボタン)
4
3
どの画面でも
基本画面へ
1
1月17日 5時46分 00秒
北緯 34.36 東経 135.00
M7.2 深さ 16km
(戻るボタン)
(進むボタン)
(戻るボタン)
(進むボタン)
2
時間
031
震度
5強
1
時間
034
震度
5強
(戻るボタン)
(進むボタン)
(戻るボタン)
(進むボタン)
2
6月12日 17時 14分 00秒
北緯 38.1 東経 142.4
M7.4 深さ 40km
●地震履歴2

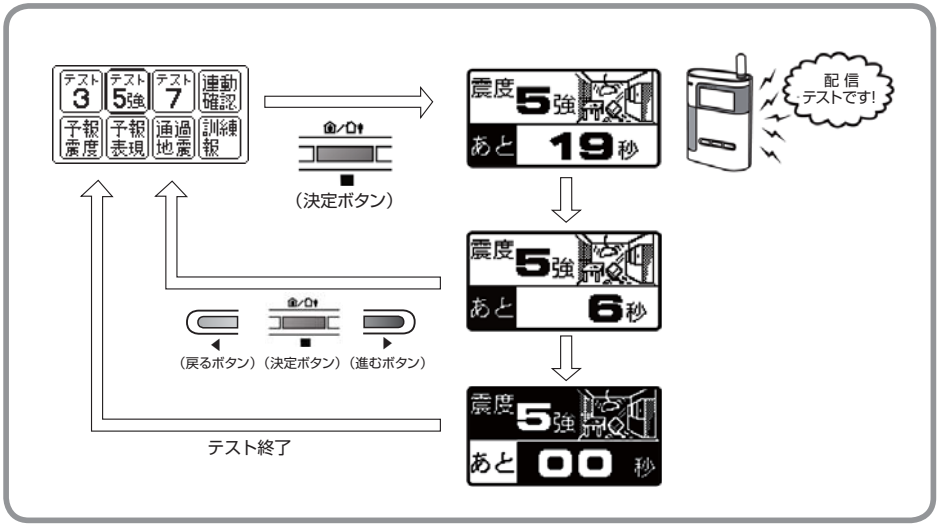
■ 「設定」画面でのボタン操作

設定画面へ移動するときは▶ボタンを2秒長押ししてください。



※「設定」画面で進む▶ボタンを押すと、選択を示す矢印が次の項目へ移動します。
※ 決定 ■ ボタンを押すと、選択された項目の設定画面へ移動します。

■ 「テスト」報知を行う



「設定」画面で「テスト」を選択して決定 ■ ボタンを押すことにより、地震速報の配信テストが実行できます。

予報内容は、

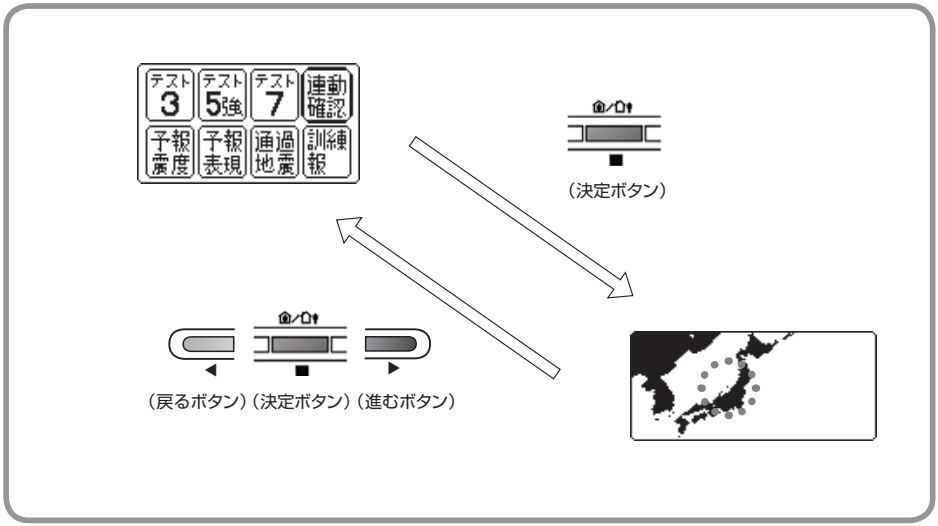
- **「配信テストです。震度3、19秒後」**
- **「配信テストです。震度5強、19秒後」**
- **「配信テストです。震度7、19秒後」**

に設定されています。

テスト動作中、接点出力「有り」に設定されている時は外部接続端子も動作します。テスト終了後は、接点出力はされません。

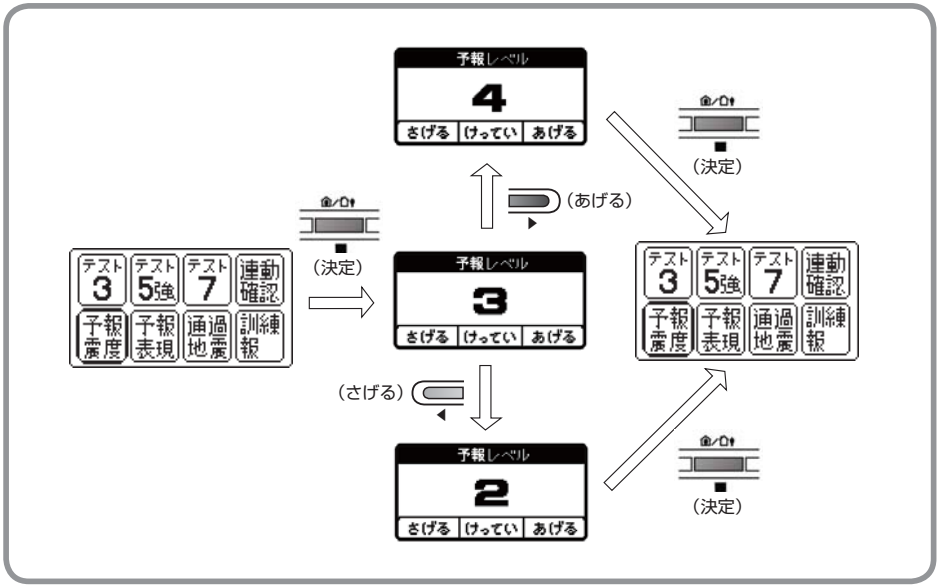
※ テスト動作中、戻るボタン／決定ボタン／進むボタンのいずれかを押すと配信テストを中止し、メニュー画面に戻ります。このように途中で配信テストを終了した場合、ＡＦ出力からは配信テストの解除を意味する「緊急地震速報を解除します。」の音声信号が出力されますので、放送設備などに接続されている場合は注意してください。

■ 連動確認



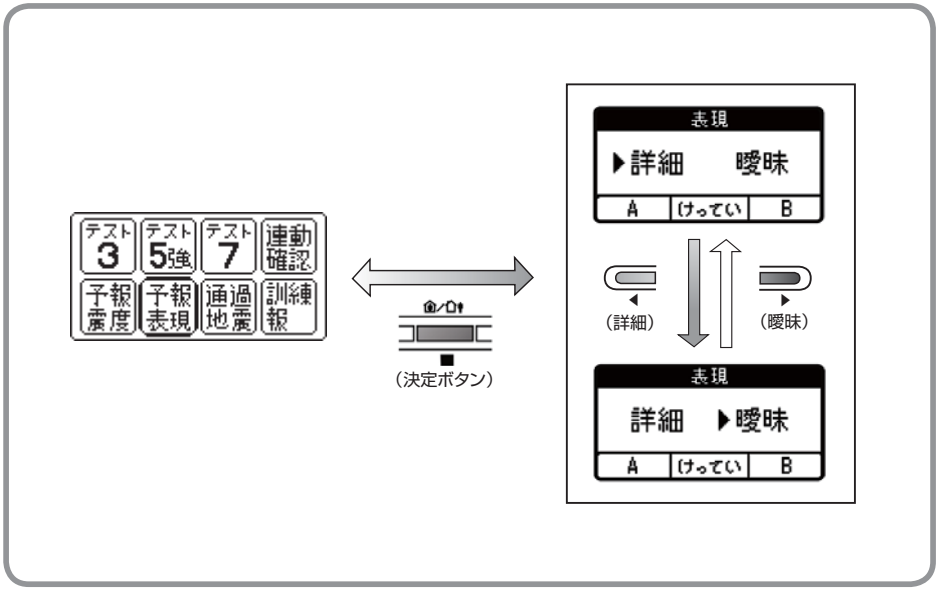
- テスト動作を用いずに放送設備との連動確認する際に便利な機能です。
- 決定■ボタンを押すと連動を開始します。連動確認中は、電子オルガン音が本機器のスピーカーから流れ、ＡＦ出力からも同様の音声信号が出力されます。また、動作中、戻るボタン／決定ボタン／進むボタンのいずれかを押すと中止します。連動開始からいずれのボタンも押さない場合は約２０秒で自動的に終了します。
- 接点出力「有り」に設定されている場合は、外部接続端子も動作します。

■ 「予報震度」の設定



- 「設定」画面で「予報震度」を選択して決定 ■ ボタンを押すと、「予報レベル」画面に入ります。
- 戻る◀ボタン、進む▶ボタンを押すことによって数値を下げ / 上げできます。希望の数値に合わせた後、決定 ■ ボタンを押してください。設定数値を保存後、「設定」画面に戻ります。
- 予報レベルは１～４、５弱、５強、６弱、６強、７から選択できます。
- 工場出荷時の設定は、「３」に設定されています。

■ 「予報表現」の設定



「設定」画面で「予報表現」を選択して決定 ■ ボタンを押し、「予報表現」画面に入ります。

戻る◀ボタン、進む▶ボタンを押すことによって予報表現を選択できます。
希望の表現に合わせた後、決定 ■ ボタンを押してください。
設定を保存後、「設定」画面に戻ります。

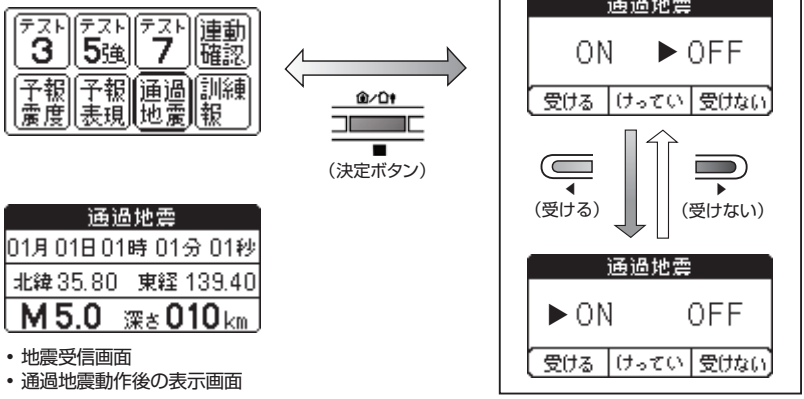
詳細表現（A）と曖昧表現（B）の違いは以下のとおりです。

詳細（A）	あいまい（B）
震度1、2、3	＝ 小さなゆれが
震度4、5弱、5強	＝ 物がたおれるぐらいのゆれが
震度6弱、6強、7	＝ 命にかかわるほどのゆれが

10秒（0～19秒） ＝すぐに来ます
20秒（20～29秒）＝まもなく来ます
30秒（30秒以上）＝もうまもなく来ます

※ 本機能をご利用になる設置環境によっては、詳細表現（A）での予報をした場合、パニックをまねく方がいらっしゃるおそれがありますので、その場合は曖昧表現（B）を選択してください
※ 曖昧表現（B）を選択していても、10秒以下になった場合はカウントダウンを行います。
※ 予報内容によって発生した二次的災害（情報受信時のパニックによる転倒等）について、弊社または販売元は一切の責任を負いません。

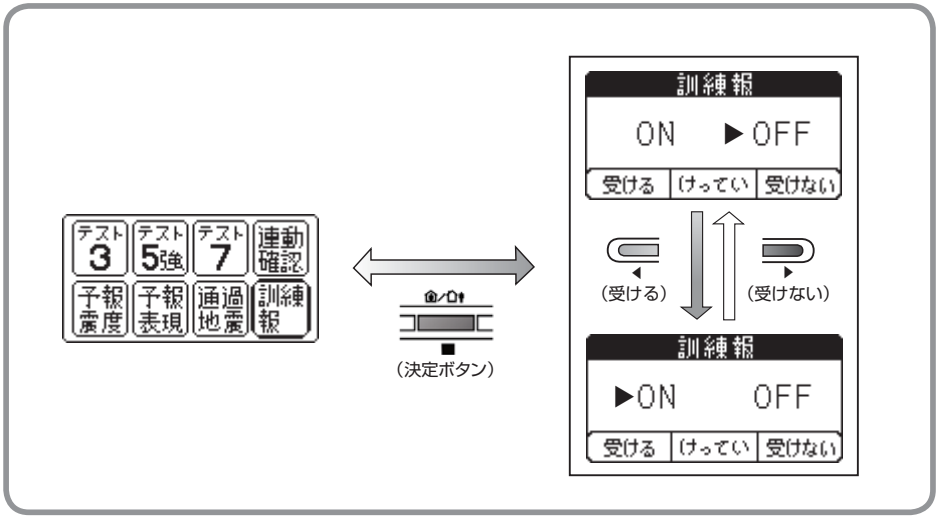
■ 「通過地震」の設定



- 地震受信画面
- 通過地震動作後の表示画面

- 「設定」画面で「通過地震」を選択して決定 ■ ボタンを押すと、「通過地震」の選択画面に入ります。
- 戻る◀ボタン、進む▶ボタンを押すことによってＯＮ／ＯＦＦの選択をします。希望の設定に合わせた後、決定■ボタンを押してください。設定保存後、「設定」画面に戻ります。
- 通過地震は、地震到達猶予時間が無い（予報が間に合わない）場合（－１０秒の範囲まで）にも報知動作させたいときに使用します。猶予秒数が０～－１０秒の場合の報知内容は、「地震震度Ｘ、ゼロ」となります。
- 通過地震を「受けない」選択時に猶予秒数が０秒を下回った場合は、本機器は報知動作しません。また、通過地震を「受ける」選択時に猶予秒数が－１０秒を下回った場合も本機器は報知動作しません。
- 工場出荷時の設定は、「受けない」（ＯＦＦ）に設定されています。

■ 「訓練報」の設定

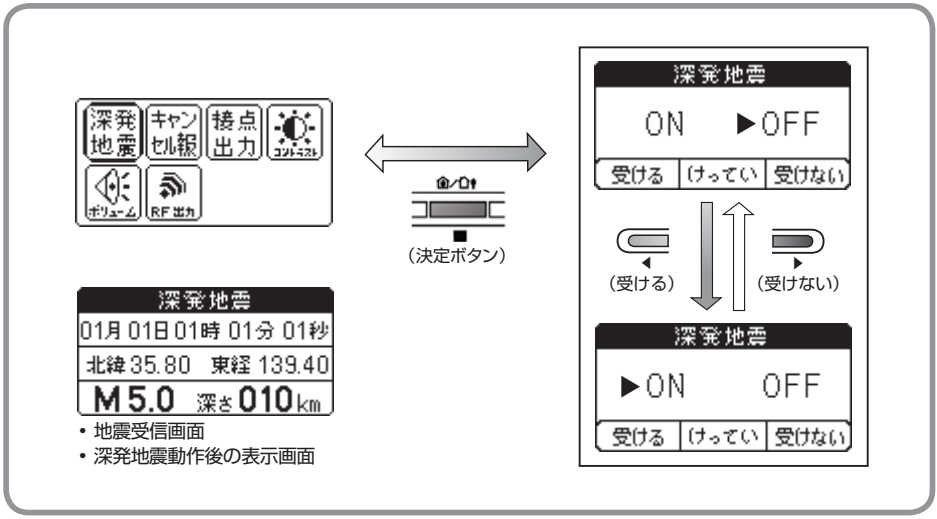


- 緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間はごくわずかであり、その短い間に、あわてずに身を守るなど適切な行動をとるためには日ごろからの訓練が重要です。
  内閣府と気象庁では、国民の皆様に緊急地震速報を見聞きした際の行動訓練を実施していただくため、緊急地震速報が法律上の警報・予報として位置づけられた１２月１日に、緊急地震速報の全国的な訓練を実施することとしています。
  気象庁は、毎年１２月１日午前１０時１５分頃(※1)、訓練用の緊急地震速報(以下「訓練報」といいます。)を配信しますので、家庭や民間企業等の皆様は、受信端末で伝達される訓練報を見聞きすることにより、机の下に隠れるなど、身の安全を確保するための行動を試してください。この訓練では、全国的に受信端末を起動させる必要があることから、震源要素が異なる複数の訓練報を、短時間（10 数秒程度内）に、連続して配信する計画です。
  お住まいの地域や受信端末の設定状況によっては、受信端末が複数回動作することがあります。
  訓練報を受信した際に、お持ちの受信端末がどのように動作するかについては、弊社または販売元お問い合わせください。

  ※1…訓練報、実施日は見直される場合があります。また、地震の発生状況等により、訓練用緊急地震速報の配信を中止する場合があります。

- 「設定」画面で「訓練報」を選択して決定 ■ ボタンを押し、「訓練報」の選択画面に入ります。
- 戻る◀ボタン、進む▶ボタンを押すことによってＯＮ／ＯＦＦの選択をします。希望の設定に合わせた後、決定 ■ ボタンを押してください。設定保存後、「設定」画面に戻ります。
- 訓練報を「受ける」に設定した場合は、気象庁の訓練報および配信事業者からの配信テストに対して動作し、予測演算結果が設定震度以上になった場合「配信テストです。震度Ｘ、ＳＳ秒後」と報知します。「受けない」に設定した場合は、訓練報および配信テストに対して動作しません。
- 工場出荷時の設定は、「受けない」（ＯＦＦ）に設定されています。

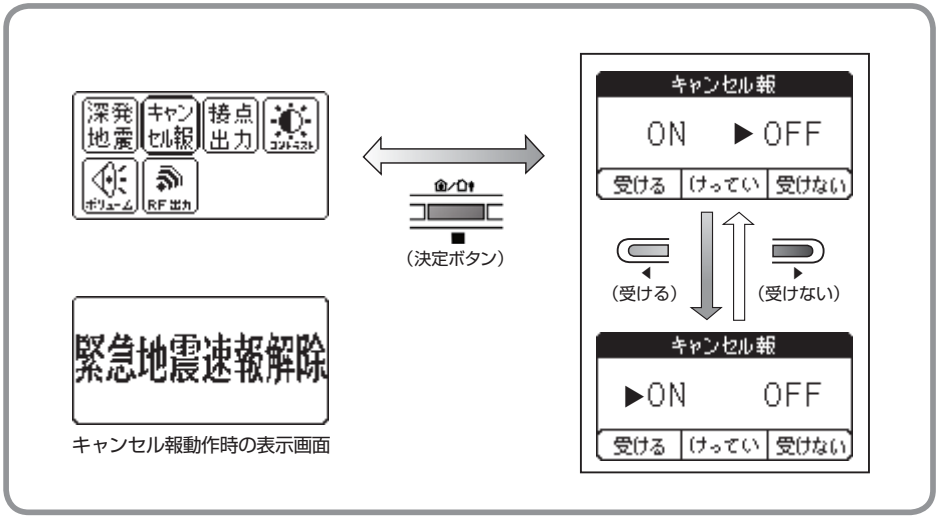
■ 「深発地震」の設定



- 地震受信画面
- 深発地震動作後の表示画面

- 「設定」画面で「深発地震」を選択して決定 ■ ボタンを押すと、「深発地震」の選択画面に入ります。
- 戻る◀ボタン、進む▶ボタンを押すことによって ON/OFF の選択をします。希望の設定に合わせた後、決定 ■ ボタンを押してください。設定保存後、「設定」画面に戻ります。
- 深発地震は、震源の深さが１５０ｋｍよりも深い場合、震度および地震到達猶予時間の予測演算結果に大きな誤差を含む可能性が高くなります。お客様側で「受ける / 受けない」の選択をしてください。
- 深発地震「受ける」に設定した場合は、震源の深さに関係なく動作します。「受けない」に設定した場合は、震源の深さが０～１５０ｋｍの地震に対して動作し１５０ｋｍを超える深さの地震に対しては動作しません。
- 工場出荷時の設定は、「受けない」（ＯＦＦ）に設定されています。

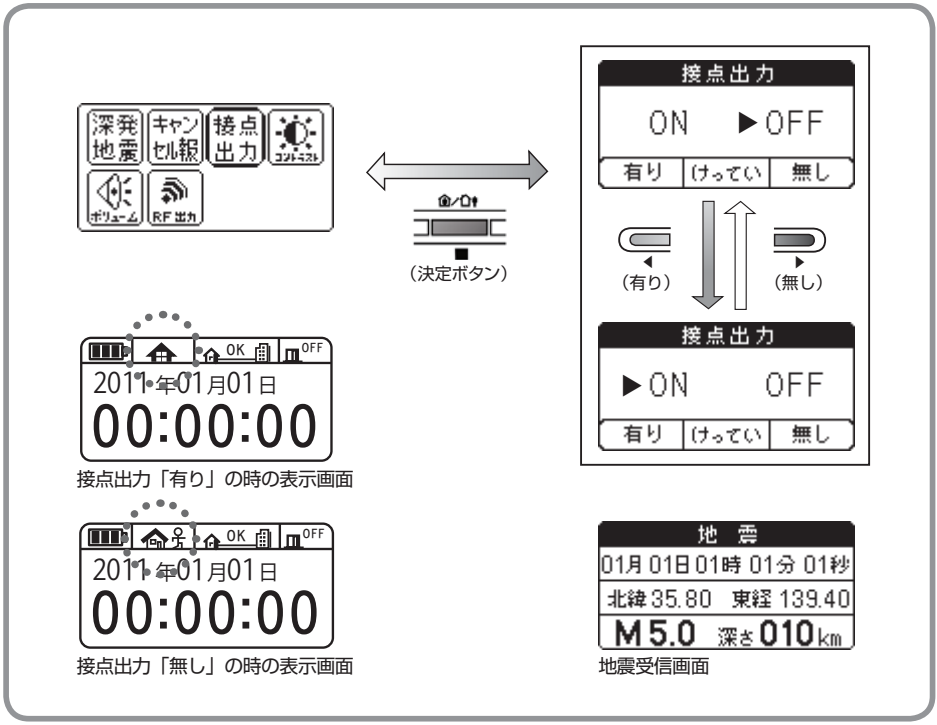
■ 「キャンセル報」の設定



- 「設定」画面で「キャンセル報」を選択して決定 ■ ボタンを押し、「キャンセル報」の選択画面に入ります。
- 戻る◀ボタン、進む▶ボタンを押すことによってＯＮ／ＯＦＦの選択をします。希望の設定に合わせた後、決定 ■ボタンを押してください。設定保存後、「設定」画面に戻ります。
- キャンセル報を「受ける」に設定した場合は、直前に報知動作した緊急地震速報のＩＤと一致したキャンセル報に対して反応し、本機器より「緊急地震速報を解除します。」という音声で報知動作します。「受けない」に設定した場合は、キャンセル報に対して動作しません。
- 本機器で、このキャンセル報を受信した際には、直前の緊急地震速報 (予報) が誤りだったと理解して頂き、落ち着いた行動をとっていただきますようお願い致します。
- 工場出荷時の設定は、「受けない」（ＯＦＦ）に設定されています。

※ 1 点の観測点のみの処理結果によって緊急地震速報（予報）を発信した後、所定の時間が経過しても 2 観測点目の処理が行われなかった場合はノイズと判断し、発表から数秒～ 10 数秒程度でキャンセル報を発信します。島嶼部など観測点密度の低い地域では、実際の地震であってもキャンセル報を発信する場合があります。なお、この場合には、キャンセル報の発信までに 30 秒程度がかかることがあります。

■ 「接点出力」の設定

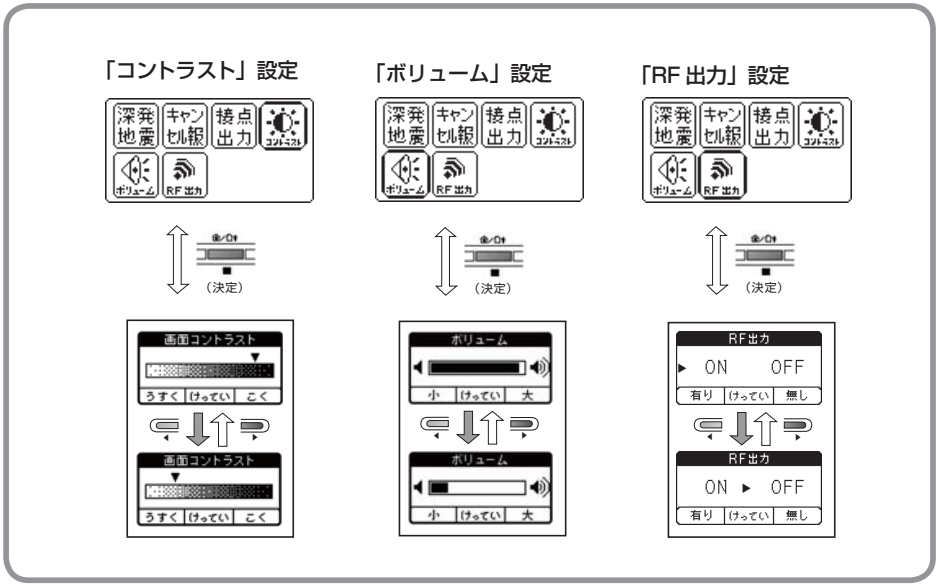


- 「設定」画面で「接点出力」を選択して決定 ■ ボタンを押すと、「接点出力」の選択画面に入ります。
- 戻る◀ボタン、進む▶ボタンを押すことによってＯＮ／ＯＦＦの選択をします。希望の設定に合わせた後、決定 ■ ボタンを押してください。設定保存後、「設定」画面に戻ります。
- 接点出力「有り」に設定した場合は、テスト配信時、訓練報受信時あるいは実際の緊急地震速報受信時に設定震度以上の予測演算結果となった場合に０１、０２から制御信号を出力します。「無し」に設定した場合は、制御信号を出力しません。

※ 接点出力「有り」の場合、実際の緊急地震速報を受信して報知動作した場合、地震受信画面が表示されている間は、０１から継続的に制御信号が出力されます。０１の制御信号を終了させるためには、決定 ■ ボタンを押すか、あるいは I1 入力から短絡信号を入れてください。通常の時計画面に戻ると０１の制御信号が終了します。

- 工場出荷時の設定は、「有り」（ＯＮ）に設定されています。

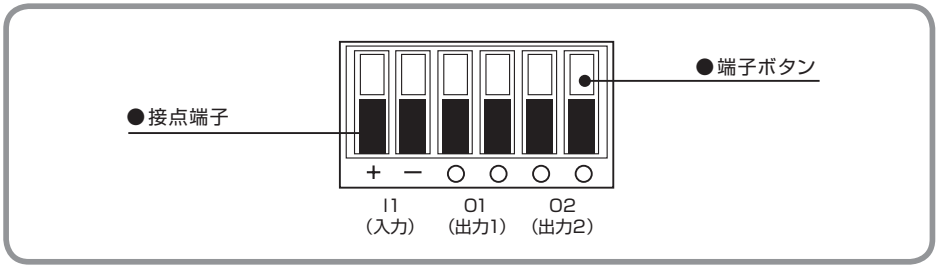
■ その他の設定



- 進む▶ボタンで選択して決定 ■ボタンを押すと、それぞれの画面が表示されます。
- 戻る◀/ 進む▶ボタンを押すことによって設定値を調整できます。
  希望の設定値に合わせて決定 ■ ボタンを押してください。
  設定値を保存後、「設定」画面に戻ります。

■ 外部接続端子について

※ 弊社または販売元の指定業者の指示なく外部接続端子に接続しないでください。
※ 外部制御機器を接続する時は、各端子のボタンを軽く押してコードを差し込んでください。



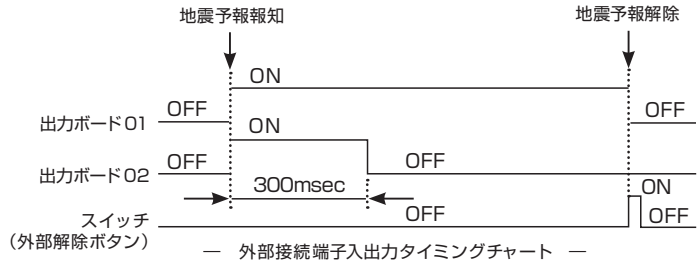
◆ 入力

出力ポート０１を解除（ＯＦＦ）させるスイッチ（外部解除ボタン）を接続します。
※ 無電圧ループ接点のため、電圧を与えないでください。故障の原因となります。

◆ 出力

- 出力ポートは０１と０２の２チャンネルです。
- 出力ポート０１は地震予報と同時にＯＮになります。
  地震予報後に解除するまでＯＮのまま継続します。
- 出力ポート０２は地震予報と同時に３００ｍｓｅｃ（0.3秒）間のみＯＮになります。
  （ＪＥＭＡ－ＨＡ規格準拠）
- 出力ポート０１の解除は下記方法で行われます。
  1. 本機報知確認時に決定 ■ ボタンを押す。
  2. 入力ポートに接続したスイッチ（外部解除ボタン）をＯＮにする。

※ ０１、０２ともに無電圧ループ出力です。
許容入力は両チャンネル使用時でＭＡＸ４０Ｖ、８０ｍＡ（瞬時 Ｐｅａｋ １５００Ｖ、２４０ｍＡ）です。
※ 接続できる機器については、お問い合わせ窓口にお問い合わせください。



— 外部接続端子入出力タイミングチャート —

■ 定期点検

本製品は常に安定稼動させるために、定期点検を行ってください。

◆ 日常の点検

本製品のディスプレイの「**第５章　基本画面（Ｐ29）参照)**」で、以下の点を確認してください。

1. 「時計」が正しく表示されていること。
2. 「サーバー接続状態」が「ＯＫ」になっていること。
3. サウンドユニットを併用している場合は、予報テスト（P40 参照）を行い、サウンドユニットから予報が適切な音量で聞こえること。

長期使用により、電池残量が少なくなってきた場合は、お客様にて市販のリチウム電池（ＣＲ123Ａ）を別途ご購入のうえ、交換してください。

上記にかかわらず、本製品に異常が見られた場合は、ただちにお問い合わせ窓口までご連絡ください。

◆ 業者による点検

本製品の内部で使用している部品の劣化や寿命などを点検するために、１年に１回はお問い合わせ窓口の指定業者に点検を依頼してください。

※ 業者による点検は、本製品の保証期間内外を問わず有料となります。

7 困ったときは

■ トラブルシューティング

地震履歴がなくなります	通信状態に異常があった場合、本機器は自動的に再起動します。 再起動の際、保存していた履歴が消去されます。
電源を入れても画面に何も表示されません	1. 本体の左上の電源ランプが点灯しているかお確かめください。 2. 本機器付属のＡＣアダプターかお確かめください。 ※ ＡＣアダプターはＡＣ１００Ｖ、６０/５０Ｈｚ専用です。 ※ 変圧機等を使用している場合、その機器の仕様をもう一度お確かめください。
本体の電源ランプおよびディスプレイがＯＮ/ＯＦＦを繰り返します	本機器は電源ランプを点滅させることによって異常が発生していることをお伝えします。サーバーとの通信ができない場合、約３分単位で自動的に再起動を繰り返します。再起動を繰り返す場合、次の項目を確認してください。 ● **サーバーとの接続ができないとき** 1. ネットワーク環境をお確かめください。（ハブ、ルータープロバイダー） 2. ルーターセキュリティ設定のＴＣＰ「９００１」ポートの制限を許可してください。 3. ルーターのＤＨＣＰ設定を有効にしてください。 ● **通信ができてもユーザー登録手続きが完了していない時** 「**第４章 設置する前に（Ｐ24）**」を参照してください。
ディスプレイ画面のサーバー接続状態「×」のままです	本機器はお客様のご自宅のネットワーク環境からプロバイダーの通信回線を経由して弊社のサーバーへ接続されます。時により不具合が生じることでサーバー接続状態が「×」になるときがあります。 1. 電源を入れ直してその変化をお確かめください。 2. ＬＡＮケーブルが正しく接続されているかお確かめください。 3. ハブ、ルーター、インターネットプロバイダーの設定をお確かめください。 4. 使用しているネットワーク機器（モデム・ルーター・ハブ）の電源を入れ直してください。 5. ルーターセキュリティ設定のＴＣＰ「９００１」ポートの制限を許可してください。 6. ルーターのＤＨＣＰ設定が有効になっているかお確かめください。 7. パソコンやネットワーク機器が本機器と同じＩＰアドレスを使っていないかお確かめください。
基本画面から５分以上待っても変化がありません	1. 本機器の右側のリセットボタンが押されたままの状態になっていないかお確かめください。 2. ＬＡＮケーブルおよびＡＣアダプターを接続して直してください。

7 困ったときは

ボタンの操作が できません	1. 予報後は、予報確認を行わなければ機器の操作は一切できません。 予報の内容を確認後、決定（■）ボタンを押して基本画面に戻してください。 2. 地震予報が報知している最中はボタンの操作はできません。 3. 本機器に電源を入れて基本画面が出てくるまで操作はできません。 4. サーバーとの通信ができない状態が約３分続くと、自動的に再起動しますが、この時にもボタンの操作ができなくなります。
操作音が聞こえません	設定」画面の「その他」で「ボリューム」の設定値をお確かめください。 （「**第6章 その他の設定（P 49）**」を参照）
画面の文字が見えません	「設定」画面の「その他」で「画面コントラスト」の設定値をお確かめください。 （「**第6章 その他の設定（P 49）**」を参照）
その他	その他の疑問点や本機器の不具合がありましたらお問い合わせ窓口にお問い合わせください。 ※ お問い合わせの際には必ず、お客様が使用している機器のＩＤをお伝えください。（本体裏面のリアラベルに記載されています。）
修理の受付	本機器の不具合等による交換を希望の方は、ご連絡いただく前に、本書や弊社ＷＥＢサイトを参照し、設置方法や設定等が正しいか再度ご確認ください。正しく設置や設定を行っているにもかかわらず不具合が改善されない場合は、お問い合わせ窓口までご連絡ください。 ● **保証期間中の場合** 保証書の記載に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証規定をお読みください。 ● **保証期間後の場合** ご要望により有料で修理させていただきます。

⚠ ご注意 ～ 必ずお読みください ～

- 製品をお送りいただく前に、必ずお問い合わせ窓口へご連絡のうえ、窓口の了解を得てください。お問い合わせ窓口の了解なくお送りいただいた場合は、受け取りが拒否されます。
- お問い合わせ窓口までの送料はお客様のご負担となります。着払いでお送りいただきますと、受け取りが拒否されます。なお、運送中の事故においては、お問い合わせ窓口は責任を負いかねます。
- 修理の際、本製品は工場出荷時の状態に戻ります。お客様が行った設定、および予報履歴は消去されます。
- 上記は変更になる場合もありますので、お問い合わせ窓口ＷＥＢサイトで最新の情報をご確認ください。
- 「初期不良」は、製品のご購入後１週間以内に弊社へご連絡いただいた場合に限ります。

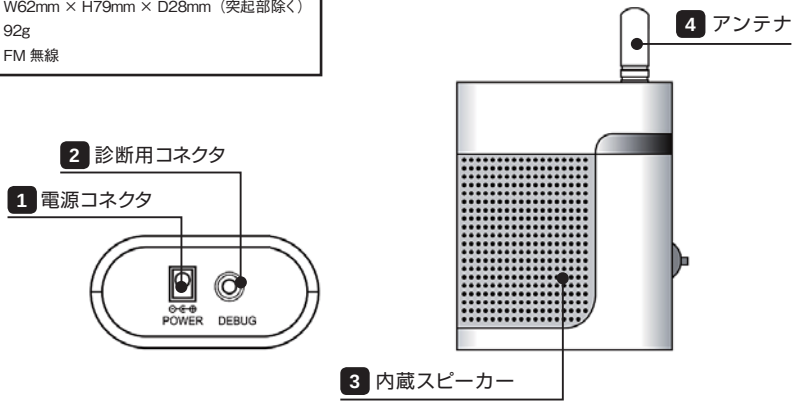
8 オプション

■ オプションサウンドユニット（品番:SH200-J-S）

このオプション品を使用することにより、本体から離れている場所（部屋）でも予報を聞くことができます。（一台の親機に対して接続できる子機の数に制限はありません）

※ サウンドユニットはオプションです。
詳しい情報はお問い合わせ窓口にお問い合わせください。親機のＲＦ出力が「ＯＮ」に設定されている必要があります。電波到達距離は、直線距離で目安４０ｍです。設定環境によって短くなる場合があります。

・品番：SH200-J-S
・寸法：W62mm × H79mm × D28mm（突起部除く）
・重量：92g
・通信：FM 無線



1 電源コネクタ

サウンドユニット専用のＡＣアダプターを接続します。
本機器（親機）のＡＣアダプターは使わないようご注意ください。

2 診断コネクタ

端末診断のための端子です。

※ 診断コネクタにイヤフォン等を挿入しないでください。
故障の原因となることがあります。

3 内蔵スピーカー

本機器（親機）から送信された電波により、本機器と同時に予報を報知します。

4 アンテナ

本機器（親機）から地震の予報信号を受信します。

9 気象庁ガイドラインに対する本機器の動作説明

ガイドライン項目			SH200-J
① 端末に備わる機能	1	サーバーとの接続障害の検知	通信エラー時にランプ点滅、メールによる通知。
	2	サーバーから緊急地震速報 (予報／業) を受信してから最初の報知を開始または制御信号を送出するのに要する時間	1 秒以内。
	3	不正な緊急地震速報 (予報／業) の端末での破棄条件	主要 4 要素（発生時刻、緯度経度、深さ、マグニチュード）の有効数字が入っていない場合は破棄。
	4	同一の緊急地震速報 (予報／業) を複数受信した場合の動作	更新アルゴリズムによって処理するため、更新条件に合わない場合は破棄。 震度が高い場合は更新。 震度が同じ場合は、猶予秒数が短くなった場合更新。
	5	動作履歴の保存	直近 4 件の報知動作した履歴を保存。 通信断があった場合は履歴を消去。
	6	耐震固定等地震の揺れへの対策	粘着テープ等で固定可能。
	7	自己診断機能	LED ランプ点滅で異常を表示。
	8	報知機能や外部出力機能	音声 (内蔵スピーカー) および LED 点滅により報知。（音声出力 ×1、接点出力 ×2）
	9	動作試験機能	端末に対して個別のテスト信号の送信が可能。
	10	訓練支援機能	端末単体でテスト可能。
	11	端末利用者の指定する場所を含む地域に緊急地震速報 (警報) が発表されている場合、その旨の伝達	警報が発表されていても連動しない。 予報資料の予測演算結果のみによる動作。
	12	精度が低い緊急地震速報 (業) で自動制御を行った場合、その旨の伝達	深発地震で動作した場合、「深発地震」を表示。 緊急地震速報の第 1 報より動作し、精度情報の区分は行わない。
② 地震動予報機能	1	地震動予報の手法	予報業務許可に沿った手法。
	2	時刻合わせ	約 3 分に 1 回のサーバーとのヘルスチェックにより同期。
	3	不正な緊急地震速報 (予報) の破棄条件	主要 4 要素（発生時刻、緯度経度、深さ、マグニチュード）の有効数字が入っていない場合は破棄。
	4	気象庁の東京、大阪システムから発信された緊急地震速報 (予報) への対応	両方に対応。
	5	予報履歴の保存・管理	問い合わせのあった場合開示可能。

「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」の弊社製品対応状況　　気象庁 H23.4.22

9 気象庁ガイドラインに対する本機器の動作説明

ガイドライン項目			SH200-J
③ 報知・制御出力条件設定機能	1	震度や猶予時間	設定震度は 1 以上から可能。 猶予秒数の報知は、-10 秒まで対応可。
	2	緊急地震速報 (警報) と整合した動作	警報が発表されていても連動しない。 予報資料の予測演算結果のみによる動作。
	3	報知音	ビープ音（NHK 音は未対応)。
	4	予想した震度や猶予時間の報知表現	詳細・曖昧表現の何れかを選択。
	5	緊急地震速報 (予報／業) の精度情報による動作	深発地震で動作した場合、「深発地震」を表示。 緊急地震速報の第 1 報より動作し、精度情報の区分は行わない。
	6	100 ガル超え緊急地震速報を受信した場合の動作	100 ガル越えの電文は破棄。
	7	同一地震について複数回緊急地震速報 (予報／業) を受信した場合の動作	更新アルゴリズムによって処理するため、更新条件に合わない場合は破棄。 震度が高い場合は更新。 震度が同じ場合は、猶予秒数が短くなった場合更新。
	8	ある地震の緊急地震速報 (予報／業) を受信した後、続けて別の地震の緊急地震速報 (予報／業) を受信した場合の動作	震度が高い場合は更新。 震度が同じ場合は、猶予秒数が短くなった場合更新。
	9	深発地震についての緊急地震速報 (予報／業) を受信した場合の動作	利用者側で予め深発地震の受信可否が選択可能。 深発地震で動作した場合、「深発地震」を表示。
	10	キャンセル報を受信した場合の動作	同一 ID で報知動作した場合にのみキャンセル報を報知。 利用者側で予めキャンセル報の受信可否が選択可能。
	11	訓練報を受信した場合の動作	利用者側で予め訓練報の受信可否が選択可能。 可にした場合、冒頭に「配信テストです」を付けて動作。
	12	テスト報を受信した場合の動作	冒頭に「配信テストです」を付けて動作。

「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」の弊社製品対応状況　　気象庁 H23.4.22

9 気象庁ガイドラインに対する本機器の動作説明

ガイドライン項目			SH200-J
④ 配信・許可事業者の通信能力	1	気象庁が緊急地震速報 (予報) を発表してから緊急地震速報 (予報／業) を端末に届けるのに要する時間	1 秒以内。
	2	気象庁から端末まで配信をとぎれさせないような対策	気象業務支援センターから当社までは 1 本の専用線でメインサーバー 2 台と接続。配信サーバーと端末 (SH200-J) は、1 つのインターネット回線で接続。配信系のサーバーがダウンした時は、ホットスタンバイのサーバーが 3 ～ 5 分で入れ替わる。
	3	サーバーや回線のセキュリティ対策	サーバーの稼働状態に異常があった場合は管理者にメール通知。使用していないサービスポートは全てクローズ。
	4	気象庁から端末の間に介在する配信・許可事業者や回線の種類	気象業務支援センター～端末間は、許可事業者である DW が担当。回線は、インターネットベストエフォート型を採用。
	5	不正な緊急地震速報 (予報／業) のサーバーでの破棄条件	主要 4 要素（発生時刻、緯度経度、深さ、マグニチュード）の有効数字が入っていない場合は破棄。
	6	サーバーの時刻合わせ	rdate および NTP を利用
	7	サーバーの設置環境	都内データセンターで管理
	8	各端末に対して接続を確認する方法	サーバー、端末間は約3分に1回のヘルスチェックで通信を確認。 通信が途絶えた場合は、販売店にメールで通知。
	9	端末への個別配信の可否	端末個別に任意の条件で配信可能。
	10	配信履歴の保存・管理	配信履歴を保有
⑤ 配信・許可事業者によるサポート	1	サーバーや端末の故障時等保守対応	平日 9：00 ～ 18：00 に対応
	2	端末利用者への連絡手段・内容	販売代理店を経由してご連絡
	3	端末の利用方法に関する助言	電話、メールでの問い合わせ対応
	4	配信に用いる回線の品質やリスクの説明	ご利用者様のインターネット回線は光を推奨。
	5	端末を接続できる配信・許可事業者及び配信・許可事業者が接続できる端末	DW サーバー以外からの配信は受信できない。 配信形式は未公開（独自形式）。
	6	端末利用者からの配信状況等の問い合わせへの対応	配信履歴を保有しており、その都度問い合わせ対応可能
	7	緊急地震速報 (予報) の内容等の変更への対応	専用アプリと専用ケーブルで変更可能。但し、音声は固定のため不可。
	8	緊急地震速報 (予報／業) の技術的な限界や特性等についての端末利用者への説明	取扱説明書への明記を心掛けている。 （P13 参照）

「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」の弊社製品対応状況　　気象庁 H23.4.22

MEMO

保証書

本書は、記載内容の範囲で無料修理させていただくことをお約束するものです。
保証期間内に故障が発生した場合は、お買い上げの販売元または工事店に修理をご依頼の上、本書をご提示ください。本書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。

バーコード		- この上にバーコードを貼付してください -		
MODEL		SH200－J		
登録(申込)日		年　　月　　日		
お客様	ご住所	〒		
	設置住所	〒		
	お名前		☎1	
	E-mail		☎2	
販売店	販売店(工事店)名・住所・電話番号			
保証期間		お買い上げ日　　年　　月　　日より		1年

Dream Ware
株式会社ドリームウェア
TEL：044-931-4820
(平日10：00～17：00 ※土・日・祝日・年末年始除く)

保証規定

- 保証期間内に、正常なる使用状態において、製造上または部品が原因で異常が発生した場合には、弊社の責任において保証します。
- 保証期間内に異常が発生し、検査が必要となった場合は、保証書をご提示の上、お問い合わせ窓口にご依頼ください。
- 検査ご依頼時の脱着作業費、それらに伴う交通費および送料等の諸経費は、お客様のご負担となります。また、検査や保証修理等で使用できない期間、地震速報を受信できなかったことを原因とする一切の損害費用の補償はしません。
- 本製品は、登録した場所に設置した場合のみ上記事項に定めた保証をします。
- また外部制御機器の間違った取付や、その他の改造等をした場合は、保証対象外となります。
- 下記の事項については保証の対象とはなりませんのでご注意ください。

1. ユーザー登録が行われていない場合、および、本保証書のご提示がない場合。
2. 保証書の所定事項の未記入、または字句を書き換えられた場合、および新品時のユーザー登録以外の場合、使用者の変更が発生した場合。
3. 取扱説明書に記載された内容とは異なる方法で、使用した場合の作業上の事故・故障および損傷。
4. 取扱説明書に記載されてある、注意事項の不徹底により発生した場合の、作業上の事故・故障および損傷。
5. ご使用上の誤り（水などの液体こぼれ、落下、水没）または改造し設置した場合の故障および損傷。
6. 本製品と併用して使う外部制御機器の異常が原因による故障および損傷。
7. 使用により生じた、傷や塗装などの外見上の変化、および化学薬品の付着による表面処理の変化、および変質。
8. 登録した以外の場所に設置している場合。
9. お買い上げ後の輸送や移動時の落下・衝撃などのお取り扱いが不適切なために生じた事故および損傷。
10. 火災・地震・風水害・落雷その他の天変地異、および公害・煙害・異常電圧・異物混入・塩害・盗難・事故などによる故障および損傷。
11. 有寿命部品や消耗品の自然消耗、腐耗、劣化等により部品の交換が必要になった場合。
12. 故障および損傷原因が製品以外にある場合。
13. 消耗品および付属品。
14. 前ページ以外で弊社の責に帰すことができない原因により生じた故障および損傷

- 本製品に対する保証は前記の範囲に限られます。本書記載の方法によりその目的が達成できるかどうかに係わらず、いかなる損害（地震速報を受信できなかったことによる損失、逸失利益、保存されていた情報の消失、事業の中断、データの消失、収益の損失、使用上の損害、またはそれ以外のいかなる種類の商業上または経済上の損失、特別損害、偶発的損害、間接損害、付随的損害、派生的損害を含む）について一切の責任を負いません。そのような損害が生じる可能性について、弊社が以前から警告を受けていたとしても損害に対する責任を負うことはありません。あらかじめご了承下さい。
- 本保証書は、日本国内において使用することのみ有効です。
  This warranty is valid only in Japan

◆ ご注意

- 保証書、バーコードラベルは、いかなる場合においても再発行しませんので、紛失なさらないように、大切に保管してください。
- 本製品に関しては保証期間中においても出張修理は行いません。
- 本保証書は、登録されたお客様に対してのみ有効となります。そのため、個人情報も記載されていますので、保証書の保管はお客様の責任において行ってくださいますようお願いします。
- 本保証書は、本保証書に記載された内容により、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- 本製品の仕様、外観とも、改良等により予告なく変更する場合があります。

ご注意

■ 本書についての注意

1. 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一不備な点や誤りなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、弊社に無断で使用できません。
4. 本製品の仕様、価格、外見などは予告なく変更することがあります。
5. 本製品は、日本国内での使用を前提に設計したものです。海外では使用しないでください。
本書に記載されている社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

NO	発行年月日	版 数	記載変更内容
1	2009 年 11 月 1 日	初版	初版発行
2	2010 年 4 月 1 日	第 2 版	字句修正
3	2010 年 11 月 5 日	第 3 版	通過地震、訓練報を追加
4	2011 年 4 月 1 日	第 4 版	深発地震を追加
5	2011 年 8 月 3 日	第 5 版	テストモード 2 種 , 連動 , キャンセル報 , 接点出力追加

MEMO

MEMO

■ 仕　様

品　番	SH200-J
品番	SH200-J
定格入力	12V-800mA
消費電力	1W
音湿度条件	動作時 0 ～ 40℃、非動作時 -10 ～ 60℃ 湿度 10 ～ 80%RH（ただし、結露なきこと）
オプションとの通信方式	ＦＭ無線
外部接続	入力 － 1ch 　無電圧ループ接点入力に対応 入力 － 1ch、2ch （ 定格電圧：MAX 40V 両チャンネル瞬間 Peak 1500V ） （ 定格電圧：MAX 80mA 両チャンネル瞬間 Peak 240mA ） ※ 1ch、2chともに無電圧ループ接点出力
音声ライン出力	RCA MONO, 800nV、-9dBm/600Ω不平衡

お問い合わせ

株式会社ドリームウェア
TEL：044-931-4820
（平日10：00～17：00 ※土・日・祝日・年末年始除く）